

福島県文化財センター白河館

年報 ～令和3年度実績～

公益財団法人福島県文化振興財団

年報（令和3年度実績）発刊によせて

館長 石川 日出志

菊池徹夫先生の後任として令和4年6月に館長に就任いたしました。福島県文化財センター白河館の発展に尽くしてまいり所存ですので、前任者同様、御支援のほどお願い申し上げます。さて、「見て・触れて・考え・学ぶ体験型フィールドミュージアム」として2001（平成13年）年7月にオープンした福島県文化財センター白河館（愛称「まほろん」）は、令和4年7月で21年を経過いたしました。本書は、20年目の取り組みとして実施した2021（令和3）年度の管理運営実績を総括するものです。

2021（令和3）年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、予定していた行事を中止せざるを得なくなった場合もありましたが、令和3年10月16日には開館20周年記念式典を挙行することができました。参加人数を制限し、感染症対策を講じた上での開催となりましたが、参加者の皆様から多くの祝福を受けることができました。これもひとえに、県民の皆様の御理解と御支援の賜と感謝申し上げます。

また、企画展「法正厩遺跡展3『複式炉の時代－縄文集落の画期－』」では、国重要文化財に指定されている法正厩遺跡出土品のほか、福島県内各地の出土品を豊富に展示しました。このほか、2021（令和3）年度は白河館20周年記念企画として、3回の企画展を開催しました。これらの企画展に関連した内容で実施した文化財講演会等では、定員を絞り事前申し込み制にするなどの感染症対策を講じました。

現在、白河館は感染症拡大防止対策を講じながら、館の運営を行っております。このような状況下にあっても、文化財を未来につなぐという私たちの使命はもちろん変わりません。職員一同、これからも鋭意努力する所存ですので、皆様には、変わらぬ御指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



開館20周年記念式典



開館20周年記念企画展開幕式

目 次

第1章 白河館の概要

- 1 白河館の業務……………1
- 2 白河館の沿革……………1
- 3 令和3年度の主な行事……………2
- 4 災害等の影響……………2

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

- 1 利用状況……………3
 - 1. 利用者数……………3
 - 2. 入館者数の内訳と傾向……………3
- 2 維持管理に関する業務……………5
 - 1. 建築物・設備・環境衛生・
外構等保守管理業務……………5
 - 2. 施設・設備等の修繕状況……………5
 - 3. 備品・物品管理業務……………5
- 3 文化財の収蔵・保管に関する業務……………6
 - 1. 収蔵資料……………6
 - 2. 資料貸し出し……………6
 - 3. 写真掲載等承認……………6
 - 4. 資料閲覧……………7
- 4 文化財の活用に関する業務……………8
 - 1. 常設展示……………8
 - 2. 企画展示……………10
 - 3. 講演会等……………17
 - 4. 体験学習・イベント……………19
- 5 文化財に関する情報発信……………22
 - 1. ホームページによる情報発信……………22
 - 2. SNSによる情報発信……………22
 - 3. まほろん通信の発行……………22
- 6 文化財に関する研修及び技術支援……………23
 - 1. 概要……………23
 - 2. 研修実施状況……………23
 - 3. 技術支援状況……………25
- 7 文化財の活用に関する調査研究……………25
 - 1. 文化財の調査……………25
 - 2. 体験学習における試み……………25
 - 3. 文化財等に関する情報収集……………25
 - 4. 研究紀要……………25

- 8 出土文化財の保存処理……………25
 - 1. 劣化防止等業務……………25
 - 2. 保存処理業務……………26
 - 3. 分類・データベース入力業務……………26
- 9 ボランティア活動の支援……………26
 - 1. 募集……………26
 - 2. 登録……………26
 - 3. 活動内容……………26
 - 4. 支援体制……………27
- 10 その他……………27
 - 1. 年報の発行……………27
 - 2. 運営協議会の開催……………27
 - 3. 博物館実習……………27
 - 4. 産業現場実習……………28
 - 5. 被災ミュージアム再興事業……………28
 - 6. 他機関との連携……………28
 - 7. 開館20周年記念式典・記念企画展
開幕式……………29

第3章 令和3年度の組織と管理運営費

- 1 組織……………30
- 2 管理運営費……………30

第4章 白河館施設の概要……………31

第5章 白河館の条例・規則

- 1 福島県文化財センター白河館条例……………33
- 2 福島県文化財センター白河館条例
施行規則……………33

白河館の利用案内……………34

第1章 白河館の概要

1 白河館の業務

福島県文化財センター白河館（愛称「まほろん」）。以下「白河館」と表記する。）は、文化財等を保管・活用することによって県民の文化の振興に資するため福島県が設置した文化施設であり、平成13年7月に開館した。

白河館は、福島県教育委員会が発掘調査した遺跡で出土した遺物や記録写真、図面などの資料を収蔵・保管し、それを展示・体験学習等に活用すると共に、文化財を担当する市町村職員等を対象とする研修、文化財に関する情報発信等の役割を担っている。

福島県は、開館から平成17年度まで、財団法人福島県文化振興事業団に館の管理運営業務を委託していたが、平成18年度から指定管理者制度を導入し、管理運営業務を行う法人等を広く公募することにした。第1期（平成18年度から平成20年度まで）は財団法人福島県文化振興事業団が指定管理者に選定され、以降、第4期の現在に至るまで、同財団（平成26年4月に現名称に変更）が管理業務を担っている。

条例に定める館の業務は、以下のとおりである。

○考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。

○文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。

○文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。

○文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。

○文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。

○考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。

○白河館の維持補修及び管理に関すること。

○上記の他に、福島県教育委員会が別に定める業務。

なお、令和元年度からは、出土文化財の保存処理等に関する業務が追加されている。

白河館は貴重な文化財を様々な形で活用する施設であり、文化財の復元研究や体験学習活動を全国に先駆けて実施してきた。また、「遺跡から学ぶ自然と人間のかかわり」をメインテーマとして、“見て・触れて・考え・学ぶ”体験型ミュージアムを目指している。

2 白河館の沿革

平成6年度

福島県文化財保護審議会が「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年4月1日

福島県が財団法人福島県文化振興事業団に管理運営を委託

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成18年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が財団法人福島県文化振興事業団に3か年の管理運営を委託（平成21年3月31日まで）

平成19年4月14日 入館者20万人到達

平成21年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が財団法人福島県文化振興事業団に5か年の管理運営を委託（平成26年3月31日まで）

平成22年4月25日 入館者30万人到達

平成22年9月10日

開館以来館長を務めた藤本強館長が急逝。平成23年3月31日まで、館長職を福島県文化振興事業団富田孝志理事長が兼務

平成23年3月11日

東日本大震災発生。館内に被災箇所あり。4月30日まで臨時休館

平成23年4月1日 菊池徹夫新館長就任

平成23年5月1日

震災被害により使用できなくなった一般収蔵庫及び野外展示施設を除き、再開館

平成24年4月15日

野外展示施設修繕完了、使用を再開

平成24年5月3日

一般収蔵庫修繕完了、使用を再開

平成24年5月19日

開館10周年記念事業を実施

平成26年2月8日 入館者40万人到達

平成26年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が公益財団法人福島県文化振興財団に5か年の管理運営を委託（平成31年3月31日まで）

平成27年12月5日 入館者45万人到達

平成28年9月25日

開館15周年記念事業を実施

平成29年9月2日 入館者50万人到達

平成31年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が公益財団法人福島県文化振興財団に5か年の管理運営を委託（令和6年3月31日まで）

令和3年10月16日

開館20周年記念式典・記念企画展開幕式を実施

3 令和3年度の主な行事

令和3年4月24日～6月20日

企画展「法正尻遺跡展2―縄文人の移動と交流―」

令和3年7月22日～9月20日

企画展「文化財をよみとく科学のチカラ」

令和3年10月16日

開館20周年記念式典・記念企画展開幕式

令和3年10月16日～12月19日

企画展「法正尻遺跡展3『複式炉の時代―縄文集落の画期―』」

令和4年1月22日～5月8日

企画展「戦後ふくしまの考古学―福島県学生考古学会の発足から福島県史の刊行まで―」



開館20周年記念式典

4 災害等の影響

新型コロナウイルス感染症の新株による感染者の急増により、5月の館長講演会と9月の文化財講演会各1回を中止とした。開催にあたっては、定員を少数に絞り事前申込制にするなどの対策を講じた。また、団体の対応としては同時入館人数の制限を実施する等の対策を講じた。

館外イベントへの出展は、不特定多数を対象とした体験活動の実施を控えたため、行わなかった。

また、福島県教育委員会は、東日本大震災により被災した博物館の収蔵資料を保管するための文化財仮保管施設を当館の敷地内に設置している。本施設には、福島県被災文化財等救援本部により救出された、富岡町歴史民俗資料館・大熊町民俗伝承館・双葉町歴史民俗資料館の収蔵資料が保管されている。

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

1 利用状況

1. 利用者数

令和3年度の総利用者数は、25,595名（令和2年度23,120名）で、前年度に比べ2,475名の増加となった。入館者数は、10,831名（令和2年度11,249名）、館外利用者数は、14,764名（令和2年度11,871名）であった。

入館者数については、コロナウィルス感染症の影響により入館者が低迷する中、前年からさらに微減という結果になった。デルタ株及びオミクロン株による感染者の拡大が大きく影響を与える結果となった。

館外利用については、小・中学校等の教育機関を対象とする「おでかけまほろん」を15箇所、また、福島市・須賀川市・白河市の3箇所で開催したまほろん移動展や研修会等を含めた館外利用者の総数は、前年度に比べ2,893名増加した。これは、福島県立図書館及び白河市立図書館で実施した移動展が盛況に終わった結果を反映した。

2. 入館者数の内訳と傾向

入館者数は、10,831名（令和2年度11,249名）となった。

月別入館者数

令和3年度	年齢別属性		地域別属性		入館者	館外利用者	総利用者数 (合計)	令和2年度	
	幼小中高	一般	県内	県外				入館者	館外利用者
4月	143	561	589	115	704	148	852	362	0
5月	261	919	1,067	113	1,180	816	1,996	347	0
6月	415	757	1,031	141	1,172	11,895	13,067	751	8,812
7月	213	649	724	138	862	1,426	2,288	1,052	385
8月	341	741	942	140	1,082	27	1,109	1,577	764
9月	210	595	727	78	805	24	829	1,084	644
10月	239	712	803	148	951	212	1,163	1,328	440
11月	391	916	1,085	222	1,307	49	1,356	1,316	11
12月	129	579	603	105	708	61	769	605	36
1月	123	383	473	33	506	17	523	678	140
2月	240	453	637	56	693	6	699	1,146	313
3月	180	681	744	117	861	83	944	1,003	326
合計	2,885名	7,946名	9,425名	1,406名	10,831名	14,764名	25,595名	11,249名	11,871名

(1) 地域別利用状況

入館者の地域別利用者は、県内が9,425名（令和2年度9,977名）で94.5%（令和2年度88.7%）、県外が1,406名（令和2年度1,272名）で13.0%（令和2年度11.3%）であった。白河市内からの入館者は4,776名（令和2年度5,195名）で前年度に比べ419名減少した。

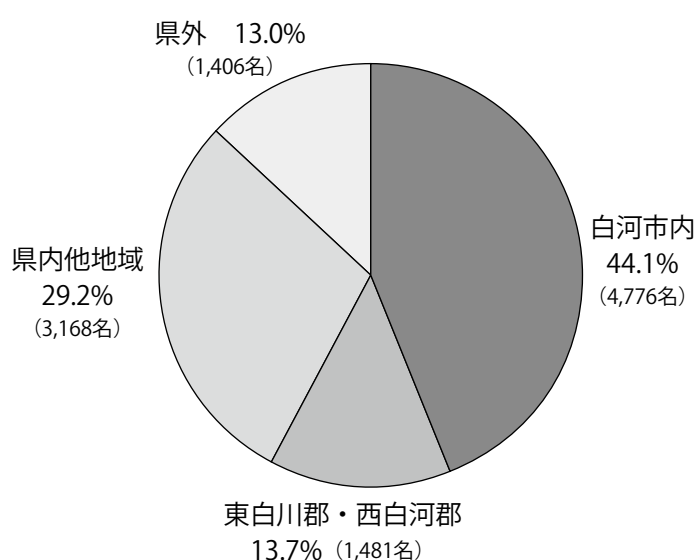
(2) 年齢別利用状況

幼児、小・中学生、高校生が2,885名で、入館者全体の26.6%（令和2年度25.7%）、一般の入館者数は7,946名で、入館者全体の73.4%（令和2年度74.3%）となり、前年度に比べ、幼児、小・中学生、高校生の入館者の割合が増加した。

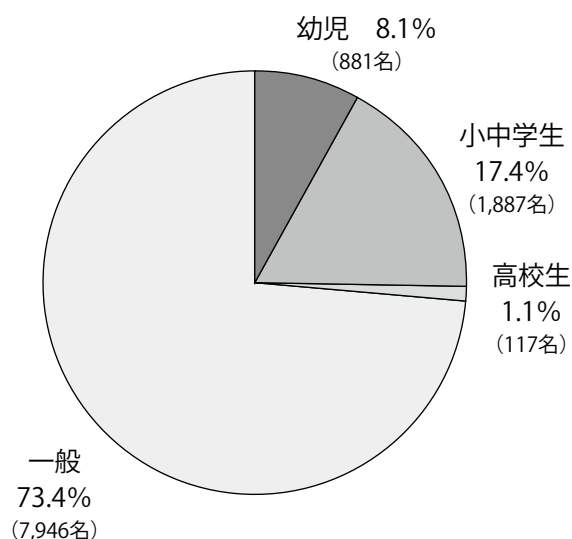
(3) 団体利用状況

入館した団体数は53団体（令和2年度は36団体）、団体による来館者数は1,193名（令和2年度735名）となり、前年度からは458名増加した。

小学校の利用は、前年度の12校から24校へと増加した。また、生涯学習関係では公民館等の利用が2件から7件へと増加し、回復の兆しが見えた。



地域別構成比



年齢別構成比

団体利用者一覧

団 体			令和3年度													令和2年度
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	合計
学校関係	幼稚園・保育園	園数	1	2				1				1		2	7	5
		来館者数	12	13				17				9		31	82	44
	小学校	学校数	1		11	2	1	3		2	1		3		24	12
		来館者数	18		323	41	13	76		103	46		124		744	378
	中学校	学校数							1						1	1
		来館者数							39						39	21
	高等学校	学校数		1					1						2	2
		来館者数		22					28						50	31
	支援学校	学校数			1										1	0
		来館者数			23										23	0
	大学	学校数		1											1	1
		来館者数		19											19	27
		幼小中高PTA (保護者のみ)	学校数												0	0
			来館者数													0
		幼小中高PTA (親子レク等)	学校数												0	0
			来館者数													0
生涯学習関係	研究会	会数												0	0	
		来館者数													0	0
	子ども会	会数												0	0	
		来館者数													0	0
	公民館等	館数		1		1	2			3				7	2	
		来館者数		9		22	24			67				122	23	
社会福祉関係	福祉施設・デイ ケアサービス	団体数	1			1	1		1					4	4	
		来館者数	7			8	13		18					46	22	
文化団体関係	資料館等	館数												0	3	
		来館者数													0	80
	歴史研究	団体数							1						1	0
		来館者数							7						7	0
行政機関関係	県・市町村・ 教委・審議会等	団体数			2								1	3	1	
		来館者数			19								8	27	11	
その他	その他	団体数								2				2	5	
		来館者数								34					34	98
合計	団体数		3	5	14	4	4	4	4	7	1	1	3	3	53	36
	団体来館者数		37	63	365	71	50	93	92	204	46	9	124	39	1,193	735
総来館者数			704	1,180	1,172	862	1,082	805	951	1,307	708	506	693	861	10,831	11,249
団体利用者の割合（％）			5.26%	5.34%	31.14%	8.24%	4.62%	11.55%	9.67%	15.61%	6.50%	1.78%	17.89%	4.53%	11.01%	6.53%

2 維持管理に関する業務

1. 建築物・設備・環境衛生・外構等保守管理業務

「福島県文化財センター白河館の維持管理に係る業務」の仕様書に則し、下記のとおり実施した。

- (1) 建築基準法第12条定期点検業務
(株) 兼子組
- (2) 空調設備点検業務
常光サービス(株)
- (3) 消防用設備等保守点検業務
大槻電気通信(株)
- (4) 電話設備等点検業務
(株) ユニテック
- (5) 簡易型昇降機及びリフター保守点検業務
常光サービス(株)
- (6) 自動ドア保全業務
常光サービス(株)
- (7) 自家用電気工作物保安管理業務
(一財) 東北電気保安協会福島事業本部
- (8) 展示用及び講堂用A/V機器保守点検管理業務
(株) オリエンタル・エージェンシー
- (9) 植栽管理業務
(有) 西牧植園
- (10) 清掃業務
(株) タイセークリーン
- (11) 除雪業務
(有) 猪越土木
- (12) 警備業務
A L S O K 福島(株)

2. 施設・設備等の修繕状況

- (1) 令和3年6月10日
一般収蔵庫誘導灯修繕
- (2) 令和3年7月30日
特別展示室壁面ケース照明設備修繕工事
(福島県直轄事業)
- (3) 令和3年10月8日
一般収蔵庫誘導灯修繕
- (4) 令和3年10月11日
男子トイレ自動水栓等交換修繕

- (5) 令和3年11月15日
職員通用口前通路天井雨漏り箇所修繕
- (6) 令和4年2月21日
消火栓ホース交換修繕
- (7) 令和4年3月1日
屋内男子トイレ照明用リモコンリレー交換修繕
- (8) 令和4年3月7日
通路天井照明器具交換修繕
- (9) 令和4年3月7日
扉用閉鎖装置交換修繕
- (10) 令和4年3月9日
事務室洗面器漏水修繕
- (11) 令和4年3月14日
ガスヒートポンプエアコン室外機保全整備
- (12) 令和4年3月14日
空調自動制御機器交換修繕
- (13) 令和4年3月14日
特別収蔵庫用空調設備加湿シリンダ交換修繕
- (14) 令和4年3月15日
一般展示室・特別展示室空調設備修繕工事(福島県直轄事業)
- (15) 令和4年3月22日
電話交換機バッテリー交換修繕
- (16) 令和4年3月28日
常設展示室防火戸修繕
- (17) 令和4年3月29日
木製扉フロアヒンジ交換修繕
- (18) 令和4年3月31日
奈良時代の倉庫修繕(福島県直轄事業)
- (19) 令和4年3月31日
敷石修繕(福島県直轄事業)

3. 備品・物品管理業務

基本協定書別表「管理財産一覧」について適正に管理した。

3 文化財の収蔵・保管に関する業務

1. 収蔵資料

	遺 物	写 真	図 面	地図・カード類	無形の文化財関連	合計（箱）
一般収蔵庫	51,387	3,384	1,220	540	10	56,541
特別収蔵庫	731					731
合計	52,118	3,384	1,220	540	10	57,272

※1 一般収蔵庫の収容能力は最大66,000箱

※2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属質遺物を収納

※3 写真は見込み数として加算されていたもののものが修正され、前年度より減となった。

2. 資料貸し出し

(1) 遺 物（9件）

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量 (点)
令 3.4.1～令 4.3.31	原町火力発電所（常設展示）	南相馬市大船迫 A 遺跡出土砂鉄ほか	21
令 3.4.1～令 4.3.31	須賀川市立博物館（常設展示）	須賀川市梅田横穴古墳出土須恵器	1
令 3.4.1～令 4.3.31	白河市歴史民俗資料館（常設展示）	白河市一里段 A 遺跡出土石器ほか	5
令 3.4.1～令 4.3.31	福島県立博物館（常設展示・継続分）	桑折町平林遺跡出土石器ほか	1,164
令 3.5.12～令 4.3.31	とみおかアーカイブ・ミュージアム（常設展）	富岡町前山 A 遺跡出土縄文土器ほか	10
令 3.7.21～令 3.10.31	福島県立博物館（ポイント展「ふくしまを耕した古代の農具」）	会津若松市西木流 C 遺跡出土コロバシほか	2
令 3.8.18～令 3.11.30	農と縄文の体験学習施設なじょもん（企画展「魚沼地方の古代～山里のなりわいと交流～」）	湯川村桜町遺跡出土弥生土器ほか	15
令 3.9.28～令 3.12.21	多賀城市教育委員会（企画展「多賀城への道」）	泉崎村関和久遺跡出土土師器ほか	5
令 4.1.26～令 4.3.2	二本松市教育委員会（企画展「二本松遺跡ドキ土器展」）	二本松市トロミ遺跡出土土器ほか	39
		合 計	1,262

(2) 模型及びレプリカ（2件）

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量 (点)
令 3.4.1～令 4.3.31	福島県立博物館（常設展示・継続分）	獣脚付容器（復元品）ほか	19
令 3.4.1～令 4.4.30	いわき市考古資料館	中田横穴出土復元馬具ほか	2
		合 計	21

3. 写真掲載等承認（22件）

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資料名	数量 (点)
令 3.5.19	大安場史跡公園公園管理センター「大安場史跡公園 令和3年度 第1回企画展『東北地方における古墳時代中期の集落・清水内遺跡』解説パネル及び解説パンフレット	小野町落合遺跡出土土器ほか	14
令 3.5.19	大安場史跡公園公園管理センター「大安場史跡公園 令和3年度 第1回企画展『東北地方における古墳時代中期の集落・清水内遺跡』解説パネル及び解説パンフレット	南相馬市桶師屋遺跡柵跡	1
令 3.5.27	飯村均・室野秀文編『続・東北の名城を歩く 南東北編』	郡山市木村館跡 III・IV・V・VI区全景	1
令 3.6.17	福島県立博物館ホームページ	会津若松市西木流 C 遺跡出土コロバシほか	2
令 3.8.4	『会津ジャーナル』第20号	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡全景ほか	7
令 3.8.16	津南町教育委員会 農と縄文の体験実習館なじょもん令和3年度秋季企画展「魚沼地方の古代～山里のなりわいと交流～」展示図録	湯川村桜町遺跡出土弥生土器ほか	15
令 3.9.8	公益財団法人ふくしま海洋化科学館 アクアマリン福島「わくわく里山・縄文の里」エリア展示解説パネル	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器	1

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量 （点）
令 3.9.15	株式会社グレイル 株式会社宝島社刊『古代史の「舞台」を歩く』（仮称）	郡山市荒小路遺跡出土土偶	1
令 3.12.2	島根県埋蔵文化財調査センター しまねの遺跡 発掘調査パンフレット「史跡出雲国府跡」	復元品「弓を射る白河軍団兵士」	1
令 3.12.10	歴史春秋出版社『岩瀬の史跡めぐり』	須賀川市一斗内遺跡出土縄文土器ほか	2
令 3.12.24	会津若松市教育委員会伸『会津若松市文化財保存活用地域計画』	会津若松市一ノ堰 B 遺跡 土坑墓検出状況ほか	4
令 3.12.24	山岡信貴 ドキュメンタリー映画『アートなんかいない！』	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器ほか	15
令 4.1.6	株式会社小学館『土偶を読む図鑑』	郡山市荒小路遺跡出土土偶	1
令 4.1.14	島根県埋蔵文化財調査センター講演会「ここまでわかった出雲国府！」パワーポイントおよび講演内容動画	復元品「弓を射る白河軍団兵士」	1
令 4.1.24	二本松市教育委員会 企画展「にほんまつ遺跡ドキ土器展」展示パネル	二本松市トロミ遺跡遠景ほか	6
令 4.1.28	文学通信『地域歴史文化継承ガイドブック』	復元品「弓を射る白河軍団兵士」	1
令 4.2.10	福島県立博物館 広報物・ホームページ	復元品「蕨手刀」	1
令 4.3.1	立正大学考古学会『考古学論究』第 22 号	須賀川市高木遺跡出土土師器	16
令 4.3.1	戎光祥出版『歴史研究』第 699 号	復元品「弩」	1
令 4.3.7	株式会社ニルソンデザイン事務所『縄文 ZINE』13 号	天栄村深沢 A 遺複式炉ほか	4
令 4.3.14	柏崎市立博物館『古代柏崎の鉄づくりを探る』	復元品『獣脚付容器』ほか	2
令 4.3.30	株式会社 KADOKAWA『シリーズ地域の古代日本 陸奥と渡島』	玉川村江平遺跡出土木簡	1
		合 計	98

4. 資料閲覧

（1）遺 物（16件）

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量 （点）
令 3.6.20	県内研究者（企画展の事前調査）	会津若松市一ノ堰 B 遺跡出土勾玉ほか	129
令 3.9.1	県外研究者（調査研究）	福島市獅子内遺跡出土石器ほか	5
令 3.9.11	県内研究者（調査研究）	飯館村上ノ台 A 遺跡出土縄文土器	16
令 3.9.24	県内研究者（企画展の事前調査）	中田横穴復元馬具ほか	22
令 3.10.20	県外研究者（出版物準備）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	6
令 3.10.30・31	県内研究者（調査研究）	須賀川市高木遺跡出土土師器ほか	48
令 3.12.7	県内研究者（調査研究）	矢吹町弘法山古墳群出土ガラス玉	355
令 3.12.8	県内研究者（企画展の事前調査）	二本松市トロミ遺跡出土勾玉ほか	122
令 3.12.10	県内研究者（調査研究）	下郷町瀧ノ入遺跡出土弥生土器	104
令 3.12.11	県外研究者（調査研究）	本宮市高木遺跡出土縄文土器ほか	165
令 3.12.23	県内研究者（調査研究）	会津坂下町能登遺跡出土弥生土器	65
令 4.1.12～16	県外研究者（調査研究）	湯川村桜町遺跡出土弥生土器ほか	2,709
令 4.1.25	県内研究者（展示前の事前調査）	泉崎村観音山北横穴出土蕨手刀ほか	3
令 4.2.2	県外メディア関係者（番組制作資料調査）	檜葉町大谷上ノ原遺跡空撮写真・動画	2
令 4.2.16	県内研究者（企画展の事前調査）	本宮市高木遺跡出土土製品ほか	164
令 4.3.27	県外研究者（調査研究）	福島市孫六橋遺跡出土石器ほか	39
		合 計	3,954

4 文化財の活用に関する業務

1. 常設展示

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ①「まほろんの逸品」
- ②「探してみよう福島の文化財」
- ③「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)

2) 常設展示室

- ①「めぐみの森」
- ②「暮らしのうつりかわり」
〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
〈旧石器時代〉
- ③「暮らしをささえた道具たち」
サブコーナー〈まほろんビデオBOX〉
- ④「遺跡を掘る」

⑤「展示コーナーA」(旧みんなの研究ひろば)

⑥「クイズ福島歴史発見」

⑦「のぞいてみよう福島の遺産」

⑧「展示コーナーB」(旧話題の遺跡)

⑨「展示コーナーC」(旧しらかわ歴史名場面)

⑩「国指定重要文化財 法正尻遺跡」

⑪映像展示

※⑤⑧⑨は、コーナー名称にとらわれず、フレキシブルに展示スペースを活用するため名称を変更した。

(2) 展示替え

令和3年度の展示替えは、別表一覧のとおりである。年度当初に作成した展示計画案をもとに、企画展事業や他の事業との関連をもたせる内容とした。

展示替え一覧

コ ー ナ ー	タ イ ト ル	開 催 期 間	所蔵者	備 考
まほろんの逸品	桑名邸遺跡の火焰型土器	令 3.4.1 ～ 6.30	福島県教育委員会	
	鳥打沢 A 遺跡の骨臓器	令 3.7.1 ～ 8.31	福島県教育委員会	
	20周年を記念して荒小路遺跡の土偶	令 3.9.1 ～ 10.31	福島県教育委員会	
	天化沢 A 遺跡の仏教関連遺物	令 3.11.1 ～ 12.29	福島県教育委員会	
	伊達市中室内遺跡の五輪塔地輪	令 4.1.5 ～ 4.30	福島県教育委員会	
展示コーナー A (旧みんなの研究広場)	双葉・大熊の生業(なりわい) ①	令 3.4.1 ～ 4.29	双葉町教育委員会 大熊町教育委員会	令和2年度からの継続
	角間と天光—法正尻周辺の縄文遺跡—	令 3.5.1 ～ 6.30	福島県教育委員会	
	交錯する人・モノ・情報	令 3.7.1 ～ 11.16	福島県教育委員会	
	木を伐る・削る—木の加工と道具—	令 3.11.17 ～ 令 4.3.27	福島県教育委員会	
	祝 国指定史跡白河市天王山遺跡関連展示	令 3.9.29 ～ 令 4.3.31	福島県教育委員会	
	土器づくり上級編作品展	令 4.3.29 ～ 3.31	実技講座受講者・ 福島県教育委員会	
	森塾生の活動	令 4.1.7 ～ 3.31		
展示コーナー B (旧話題の遺跡)	双葉・大熊の生業(なりわい) ②	令 3.4.1 ～ 4.29	双葉町教育委員会 大熊町教育委員会	令和2年度からの継続
	さまざまな実測図	令 3.5.1 ～ 6.25	福島県教育委員会	
	『令和2年度実技講座大堀相馬焼に挑戦』作品展	令 3.6.26 ～ 9.7	実技講座受講者・ 福島県教育委員会	
	まほろん収蔵の土偶	令 3.9.7 ～ 12.26	福島県教育委員会	
	双葉高校史学部研究成果から	令 4.1.7 ～ 3.31	双葉町教育委員会	
	X線 CT 画像で見る土偶の構造	令 4.1.7 ～ 3.31	福島県教育委員会	
展示コーナー C (旧しらかわ歴史名場面)	双葉・大熊の生業(なりわい) ③	令 3.4.1 ～ 4.29	双葉町教育委員会 大熊町教育委員会	令和2年度からの継続
	もうひとつの法正尻遺跡展	令 3.5.11 ～ 7.16	福島県教育委員会	
	出土品ピックアップ! 阿武隈川流域の古墳時代	令 3.7.17 ～ 9.5	福島県教育委員会	
	南相馬市赤柴遺跡の縄文土器	令 3.9.12 ～ 令 4.3.27	福島県教育委員会	博物館実習生による コーナー展
	東北自動車道関連遺跡の調査—古代白河郡のムラー	令 4.3.29 ～ 3.31	福島県教育委員会	
国指定重要文化財 公開	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡縄文土器・石器	令 3.5.1 ～ 6.30	福島県教育委員会	国指定重要文化財
		令 3.7.1 ～ 8.31		国指定重要文化財
		令 3.9.1 ～ 10.31		国指定重要文化財
		令 3.11.1 ～ 12.26		国指定重要文化財
		令 4.1.5 ～ 3.31		国指定重要文化財

1) 学芸員がおすすめする収蔵品を「まほろんの逸品」として、計5回の展示を行った。

2) 「展示コーナーA」(旧みんなの研究ひろば)

このコーナーは、歴史や文化財等に関する研究を主に紹介する。令和3年度は、前年度からの継続も含めて、計7回の展示を行った。

◆双葉・大熊の生業（なりわい）①(令和2年度からの継続)

福島第一原子力発電所の事故以降、白河館の仮保管施設で保護されている双葉町・大熊町の考古資料や近現代の民具などを展示した。

◆角間と天光一法正尻周辺の縄文遺跡―

企画展「法正尻遺跡」の関連展示として、同遺跡周辺の縄文遺跡である角間遺跡と天光遺跡の資料を展示した。

◆交錯する人・モノ・情報

6世紀末から7世紀前半の福島県域における人・モノ・情報の広域間交流を、高木遺跡等の会津型土師器の分布とその変化を通して紹介した。



「交錯する人・モノ・情報」

◆木を伐る・削る一木の加工と道具―

石斧から鉄斧への変遷など、木の加工のための道具の歴史を通して、木の利用をめぐる技術史の一端を紹介した。

◆祝 国指定史跡白河市天王山遺跡関連展示

白河市天王山遺跡の国史跡指定を記念して、同遺跡の紹介と当館収蔵の能登遺跡・和泉遺跡の天王山式土器等を展示した。

◆土器づくり上級編作品展

実技講座の参加者の作品と、手本にした白河館収蔵の縄文・弥生土器を並べて展示した。

◆森塾生の活動

小学4年生～中学生を対象とした通年型の体験学習である森の塾の活動の成果をパネル等で紹介した。

3) 展示コーナーB(旧話題の遺跡)

主に県内の文化財情報を収集し、話題性のある資料を速報的に展示するコーナーで、令和3年度は、前年度からの継続も含めて、計6回の展示を行った。

◆双葉・大熊の生業（なりわい）②(令和2年度からの継続)

福島第一原子力発電所の事故以降、白河館の仮保管施設で保護されている双葉町・大熊町の考古資料や近現代の民具などを展示した。

◆さまざまな実測図

遺跡の発掘調査で作成された住居跡や土坑、横穴式石室等の遺構の実測図を展示した。

◆『令和2年度実技講座大堀相馬焼に挑戦』作品展

実技講座「大堀相馬焼に挑戦」の関連展示として、前年度の参加者の作品と、当館収蔵の双葉郡浪江町の遺跡出土の大堀相馬焼の資料等を展示した。

◆実技講座「土偶づくりにチャレンジ」関連展示

実技講座の広報をかねて当館収蔵の土偶を展示した。

◆双葉高校史学部研究成果から

企画展「戦後ふくしまの考古学」関連展示として、双葉町教育委員会所蔵の双葉高校史学部関連資料を展示した。

◆X線CT画像で見る土偶の構造

X線CTスキャンで構造調査した当館収蔵の土偶とその画像を展示した。

4) 「展示コーナーC」(旧しらかわ歴史名場面)

このコーナーは、主に地元自治体と連携した展示も行いながら、白河地域の文化財について理解を深める展示を目的としている。

令和3年度は、前年度からの継続も含めて、計5回の展示を行った。

◆双葉・大熊の生業（なりわい）③(令和2年度からの継続)

福島第一原子力発電所の事故以降、白河館の

仮保管施設で保護されている双葉町・大熊町の考古資料や近現代の民具などを展示した。

◆もうひとつの法正尻遺跡展

企画展「法正尻遺跡」関連展示として、当館収蔵の同遺跡出土の縄文土器のうち、国指定重要文化財以外の土器を展示した。

◆出土品ピックアップ！阿武隈川流域の古墳時代

阿武隈川流域の古墳時代集落を代表する遺跡として、玉川村の辰巳城遺跡と栗木内遺跡の土師器・須恵器等を展示した。

◆博物館実習生によるコーナー展：南相馬市赤柴遺跡の縄文土器

当館で実施した博物館実習の一環で南相馬市赤柴遺跡の縄文土器を展示した。

◆東北自動車道関連遺跡の調査—古代白河郡のムラ—

福島県における埋蔵文化財保護の初期の発掘調査例である東北自動車道関連遺跡発掘調査を紹介し、そのうち古代白河郡の集落跡の遺跡から出土した土師器等を展示した。

5) 国指定重要文化財の公開

磐梯町・猪苗代町に所在する法正尻遺跡から出土した遺物のうち、国指定重要文化財の縄文土器などを選び、5月から計5回の展示を行った。

(3) 展示資料のメンテナンス等

常設・野外展示資料及び施設の状態について、展示担当の学芸員が定期的に点検を実施した。

なお、2021年2月の地震で発生した野外展示「奈良時代の倉庫」の階段及び礎石の歪みを、専門業者に依頼して修繕した。その他の軽微な修繕は、展示担当の学芸員が行った。

2. 企画展示

(1) 「法正尻遺跡展2—縄文人の移動と交流—」

会期：令和3年4月24日（土）～6月20日（日）（開催日数49日間）

観覧者数：2,216名

1) 趣旨

855点が国重要文化財に指定されている「法正尻遺跡出土品」を公開する企画展の第2回で

ある。磐梯山麓最大の縄文集落「法正尻遺跡」が物語る縄文中期前半の広域交流について紹介した。



「法正尻遺跡展2」ポスター

2) 展示の構成と内容

①法正尻遺跡とは

磐梯町と猪苗代町にまたがる法正尻遺跡の周辺の自然環境、発掘調査中から現在の姿を、地図や写真等により紹介した。

②法正尻ムラの変遷

縄文時代前期末葉から中期中葉にかけての遺構群の変遷を、遺構配置図と鳥瞰想像図で示し、各時期の出土品を、古いものから年代順に展示した。また、縄文時代中期前葉から中葉のフラスコ状土坑内における土器群を、出土状況の写真や実物大土層断面図を併用しながらわかりやすく展示した。

③移動と交流

北陸地方に由来する土器や新潟県糸魚川産のヒスイ製大珠を展示して地域間交流を示した。

④くらしの道具

狩猟、漁労、食料加工に関わる石器・石製品類を、復元品と並列させて展示をした。

⑤オプショナルコーナー

【縄文ドキッと総選挙】

お気に入りの土器を選ぶ投票コーナー。土器

を印刷したパネルに観覧者がシールを貼る方法で投票した。また、期間限定で、公式Instagramで閲覧者がいいね！ボタンを押す方法で投票を行った。

3) 成果と反省

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、法正厩遺跡展1よりも観覧者は少なかったものの、同遺跡の地域間交流という新たな視点を加えて紹介することができた。一方で、観覧者アンケートから、解説資料や解説パネルの文字が小さいという意見が多く見受けられた。これについては、今後改善を試みる。



「法正厩遺跡展2」

「法正厩遺跡展2」展示資料一覧

法正厩ムラのすがた									
資料名	器種	時期	点数	備考	資料名	器種	時期	点数	備考
遺構外出土土器	深鉢	大木6式期	4		30号住居跡出土土器	深鉢	大木7b～8a式期	2	国重文
336号土坑出土土器	深鉢	大木7a式期	2	国重文	566号土坑出土土器	深鉢	大木7b～8a式期	1	国重文
541号土坑出土土器	深鉢	大木7a式期	1	国重文		深鉢	大木8a式期	2	国重文
遺構外出土土器	深鉢	大木7a式期	1	国重文	311号土坑出土土器	深鉢	大木8a式期	2	国重文
1号住居跡出土土器	深鉢	大木7b式期	1	国重文	313号土坑出土土器	深鉢	大木8a式期	4	国重文
2号住居跡出土土器	深鉢	大木7b式期	1	国重文		深鉢	大木8b式期	1	国重文
53号住居跡出土土器	深鉢	大木7b式期	1		399号土坑出土土器	深鉢	大木8a式期	1	国重文
14号土坑出土土器	深鉢	大木7b式期	1	国重文	552号土坑出土土器	深鉢	大木8a式期	5	国重文
18号土坑出土土器	深鉢	大木7b式期	1	国重文	579号土坑出土土器	深鉢	大木8a式期	2	国重文
327号土坑出土土器	深鉢	大木7b式期	4	国重文		深鉢	大木8a式期	2	
	浅鉢	大木7b式期(阿玉台式)	1	国重文	669号土坑出土土器	深鉢	大木8a式期	2	国重文
	深鉢	大木8a式期	1	国重文	46号土坑出土土器	深鉢	大木8a～8b式期	1	国重文
	深鉢	大木8b式期	1	国重文	472号土坑出土土器	深鉢	大木8a～8b式期	5	国重文
遺構外出土土器	深鉢	大木7b式期(阿玉台式)	2	国重文	333号土坑出土土器	深鉢	大木8a～8b式期	9	国重文
移動と交流									
資料名	器種	時期	点数	備考	資料名		時期	点数	備考
327号土坑出土土器	深鉢	大木7b式期	1	国重文	501号土坑出土ヒスイ製大珠		縄文時代中期	1	国重文
566号土坑出土土器	深鉢	大木7b～8a式期	1	国重文					
くらしの道具									
資料名		時期	点数	備考	資料名		時期	点数	備考
石鏃		大木7a・b式期	2	国重文	磨製石斧		時期不明	3	国重文
石錐		大木7a・b式期	1	国重文	石核		時期不明	9	国重文
石匙		大木7a・b式期	9	国重文	磨石類		大木6・7a式期	8	国重文
石篋		大木7a・b式期	2	国重文	磨石類		大木7b式期	7	国重文
搔器		大木7a・b式期	4	国重文	磨石類		大木8a式期	8	国重文
礫器		大木7a・b式期	1	国重文	磨石類		大木8b式期	8	国重文
石核		大木7a・b式期	7	国重文	磨石類		大木9式期	7	国重文
石鏃		大木8a式期	1	国重文	磨石類		大木10式期	4	国重文
石錐		大木8a式期	1	国重文	磨石類		時期不明	4	国重文
石匙		大木8a式期	3	国重文	石皿		大木8b式期	1	国重文
石篋		大木8a式期	2	国重文	石皿		大木9式期	1	国重文
搔器		大木8a式期	3	国重文	石皿		時期不明	3	国重文
円形搔器		大木8a式期	2	国重文	石皿(脚付)		大木9式期	2	国重文
削器		大木8a式期	1	国重文	有溝砥石		時期不明	3	国重文
磨製石斧		大木8a式期	2	国重文	石錘		時期不明	8	国重文
石核		大木8a式期	6	国重文	打製三脚石器		時期不明	3	国重文
石鏃		大木8b・9・10式期	1	国重文	鐔形石製品		時期不明	1	国重文
石錐		大木8b・9・10式期	1	国重文	石冠		時期不明	1	国重文
石匙		大木8b・9・10式期	3	国重文	軽石製石製品		時期不明	2	国重文
搔器		大木8b・9・10式期	4	国重文	容器形石製品		時期不明	1	国重文
削器		大木8b・9・10式期	2	国重文	垂飾		時期不明	4	国重文
打製石斧(直刃斧)		時期不明	1	国重文	石版		時期不明	1	国重文
合計					212点				

(2)「文化財をよみとく科学のチカラ」
会期：令和3年7月22日(木)～9月20日
(月)(開催日数53日間)
観覧者数：2,053名

1) 趣旨

放射性炭素年代測定や蛍光X線分析、樹種同定や花粉分析など、各種自然科学分析を行った資料と、その科学分析の成果が遺跡の解明に貢献した事例を紹介しながら、文化財科学の手法を広く知ってもらう展示とした。

2) 展示の構成と内容

①文化財をよみとく科学のチカラ

様々な科学分析方法をパネルで紹介し、型式学や年代論などの考古学的手法と併用しながら歴史をよみとくことの重要性を解説した。

②時をハカル

近年、三島町の大谷川で発見された、沼沢火山噴火(5400～5470calBP)に関連する「埋没ケヤキ」の輪切り標本を展示するとともに、その年代に前後する時期の縄文時代前期末から中期初頭の土器を展示した。このほかに、「複式炉の年代」・「弥生から古墳時代への移行期」の放射性炭素年代測定結果を暦年代グラフで示し、当該期の土器と並列展示した。



埋没ケヤキ関連展示の様子

③環境をサグル

花粉分析、樹種同定等の成果を取り入れた「環境考古学」について解説し、いわき市大猿田遺跡や会津若松市鶴沼遺跡などから出土した木製品を展示した。

④鉄をツクル

古代製鉄遺跡から出土した遺物の化学分析結

果をもとに、生産技術の実態に迫る研究の一端を紹介した。

⑤文化財をシラベル

近年、当館が実施した蛍光X線分析やX線CT撮影などによる構造調査などの成果を紹介し、その有効性を解説した。

⑥文化財をマモル

文化財の劣化防止・保存処理に使用している道具や薬品類を展示し、その手法を紹介した。また、会津坂下町の立子沼道下遺跡で実施した土層断面の剥ぎ取り作業の様子を映像で紹介するとともに、その資料を展示した。



保存科学関連機器展示の様子

3) 成果と反省

「文化財科学」という真新しい内容の展示内容であったため、通例の企画展に比べて科学的関心が高い県内外からの来館者が多かった。しかしながら新型コロナウイルス感染症拡大により、会期中にまん延防止等重点措置が取られるなど、来館者数に大きな影響があったことは否めない。

アンケート結果を見ると、専門性の高い内容であったが理解しやすかった、実際に利用する器材を見ることができて参考になったなど、来館者の多くが文化財科学への関心が高まったように見受けられる。一方、展示内容が難しく、解説文が読み取りにくいなどの指摘もあった。

考古学だけではなく、それを取り巻く文化財科学の研究成果を、広く紹介する機会を今後も継続的に設けることは必要であろう。

「文化財をよみとく科学のチカラ」展示資料一覧

文化財をよみとく科学のチカラ				
遺跡名	所在	資料名	点数	所有ほか
塩沢上原 A 遺跡	二本松市	縄文土器	1	当館収蔵
時をハカル				
南倉沢遺跡	下郷町	縄文土器	1	当館収蔵
沢目木遺跡	小野町	縄文土器	1	当館収蔵
冑宮西遺跡	会津美里町	縄文土器	1	当館収蔵
鹿島遺跡	会津美里町	縄文土器	1	当館収蔵
植松 C 遺跡	南相馬市	縄文土器	3	当館収蔵
中江聖の宮遺跡	会津美里町	縄文土器	2	当館収蔵
法正尻遺跡	猪苗代町・磐梯町	縄文土器	2	当館収蔵
赤沢 A 遺跡	矢吹町	弥生土器	1	当館収蔵
屋敷遺跡	会津若松市	弥生土器	1	当館収蔵
桜町遺跡	湯川村	弥生土器	3	当館収蔵
高木遺跡	須賀川市	土師器	7	当館収蔵
カソード			1	加速器分析研究所蔵
グラファイト			1	加速器分析研究所蔵
アルカリ溶液			1	加速器分析研究所蔵
沼沢火山の火砕流で倒れたケヤキ			1	佐久間建設工業株式会社蔵
火砕流で倒れた表面が焦げたケヤキ木片			1	佐久間建設工業株式会社蔵
火山灰（パミス）が付着した木片			2	佐久間建設工業株式会社蔵
環境をサグル				
大猿田遺跡	いわき市	膝柄未製品	1	当館収蔵
大猿田遺跡	いわき市	容器未製品	2	当館収蔵
大猿田遺跡	いわき市	種子（クルミ、モモ）	2	当館収蔵
西木流 D 遺跡	会津若松市	曲物井戸杵	1	当館収蔵
西木流 C 遺跡	会津若松市	下駄	1	当館収蔵
高堂太遺跡	喜多方市	ツチノコ	2	当館収蔵
高堂太遺跡	喜多方市	ヨコツチ	1	当館収蔵
鶴沼 C 遺跡	会津若松市	挽物皿	2	当館収蔵
高堂太遺跡	喜多方市	木製導水管	1	当館収蔵
師山遺跡	新地町	柄振・柄	1	当館収蔵
師山遺跡	新地町	灰掻	1	当館収蔵
割田 E 遺跡	南相馬市	鉄滓	1	当館収蔵
割田 H 遺跡	南相馬市	木炭	1	当館収蔵
鉄をツクル				
小高村上海岸	南相馬市	砂鉄	3	個人蔵
大船迫 A 遺跡	南相馬市	砂鉄	1	当館収蔵
天化沢 A 遺跡	南相馬市	砂鉄	1	当館収蔵
横大道製鉄遺跡	南相馬市	砂鉄	1	当館収蔵
萩原遺跡	南相馬市	鉄塊	2	当館収蔵
横大道製鉄遺跡	南相馬市	鉄塊	3	当館収蔵
横大道製鉄遺跡	南相馬市	切片	2	当館収蔵
館越遺跡	南相馬市	鉄塊	2	当館収蔵
鳥打沢 A 遺跡	南相馬市	鉄塊	2	当館収蔵
横大道製鉄遺跡	南相馬市	炉壁	2	当館収蔵
横大道製鉄遺跡	南相馬市	羽口	1	当館収蔵
横大道製鉄遺跡	南相馬市	通風管	1	当館収蔵
館越遺跡	南相馬市	炉壁	1	当館収蔵
大清水 B 遺跡	新地町	炉壁	1	当館収蔵
南狼沢 A 遺跡	新地町	炉壁	1	当館収蔵
南狼沢 A 遺跡	新地町	羽口	1	当館収蔵
横大道製鉄遺跡	南相馬市	ゼーゲルコーン試験錐一式	3	当館収蔵
横大道製鉄遺跡	南相馬市	鉄滓	9	当館収蔵
横大道製鉄遺跡	南相馬市	流出滓（製錬滓）	1	当館収蔵
文化財をシラベル				
弘法山古墳群	矢吹町	首飾り	1	当館収蔵
弘法山古墳群	矢吹町	ガラス玉	1	当館収蔵
駒板新田横穴群	会津若松市	ガラス玉	1	当館収蔵
正直 A 遺跡	郡山市	ガラス玉	1	当館収蔵
五畝田・犬遺跡	南相馬市	ガラス玉	2	当館収蔵
高木遺跡	本宮市	赤彩土器	3	当館収蔵
宮ノ前 A 遺跡	玉川村	赤彩土器	1	当館収蔵
角間遺跡	磐梯町	赤彩土器	3	当館収蔵
江平遺跡	玉川村	木簡レブリカ	1	当館収蔵
笹内古墳群	白河市	太刀	2	当館収蔵
西原遺跡	相馬市	古銭	1	当館収蔵
笹内古墳群	白河市	辻金具	1	当館収蔵
文化財をマモル				
早稲田古墳群	須賀川市	鐙	1	当館収蔵
南狼沢 A 遺跡	新地町	木質遺物	1	当館収蔵
立子沼道下遺跡	会津坂下町	土層断面剥ぎ取り資料	1	会津坂下町教育委員会蔵
展示資料合計 107 点				

（３）「法正尻遺跡展３『複式炉の時代－縄文集落の画期－』」

会期：令和３年10月16日（土）～12月19日（日）（開催日数55日間）

観覧者数：2,512名

１）趣旨

855点が国の重要文化財に指定されている法正尻遺跡の出土品を３回に分けて展示する企画の最終回である。

法正尻遺跡の集落の画期となる縄文時代中期中葉後半期～縄文時代中期末葉の土器及び調査成果を中心に展示した。併せて同時期の東北地方南部の特徴である竪穴住居跡内における複式

炉の発生から終焉を軸に県内の遺跡を紹介し、その後に現れる地域特性を見通す展示とした。

２）展示の構成と内容

①法正尻遺跡について

遺跡の概要を解説するとともに、前２回において紹介した中期初頭～中期中葉前半期の資料を再度展示し、振り返る内容とした。

②法正尻ムラの変遷

法正尻遺跡の中期中葉後半期(大木８b式期)～中期末葉(大木10式期)の国重文指定の資料を展示した。それとともに、中期初頭～中期末葉の集落変遷、特に中期中葉後半期における集落の位置、構造の変化や竪穴・炉形態の変化な

「法正尻遺跡展示３」展示資料一覧

法正尻遺跡について									
資料名	器種	時期	点数	備考	資料名	器種	時期	点数	備考
54号住居跡出土土器	深鉢	大木7a式期	1	国重文	365号土坑出土土器	深鉢	大木8a式期(馬高系)	1	国重文
327号土坑出土土器	深鉢	大木7b-8a式期	1	国重文	遺構外出土三角柱状土製品		縄文時代中期	1	国重文
566号土坑出土土器	深鉢	大木7b-8a式期	1	国重文	501号土坑出土ヒスイ製大珠		縄文時代中期	1	国重文
	深鉢	大木8a式期	1	国重文					
法正尻ムラの変遷									
資料名	器種	時期	点数	備考	資料名	器種	時期	点数	備考
687号土坑出土土器	深鉢	大木8b式期	3	国重文	347号土坑出土土器	深鉢	大木8b式期	6	国重文
10号住居跡出土土器	深鉢	大木8b式期	1	国重文	65号住居跡出土土器	鉢	大木9式期	1	国重文
49号住居跡出土土器	深鉢	大木8b式期	1	国重文	58号住居跡出土土器	深鉢	大木9式期	1	
332号土坑出土土器	深鉢	大木8b式期	12	国重文	79号住居跡出土土器	深鉢	大木9式期	1	
395号土坑出土土器	深鉢	大木8b式期	3	国重文	90号住居跡出土土器	深鉢	大木9式期	1	
438号土坑出土土器	深鉢	大木8b式期	1	国重文	93号住居跡出土土器	深鉢	大木9式期	1	
	鉢	大木8b式期	1	国重文	99号住居跡出土土器	深鉢	大木9式期	1	国重文
497号土坑出土土器	深鉢	大木8b式期	1	国重文		深鉢	大木9式期	1	
280号土坑出土土器	深鉢	大木8b式期	1	国重文		器台	縄文時代中期	1	国重文
121号住居跡出土土器	台付鉢	大木8b式期	1	国重文		ミニチュア土器	縄文時代中期	2	国重文
77号住居跡出土土器	深鉢	大木8b式期	4		遺構外出土土器	蓋	縄文時代中期	1	国重文
432号土坑出土土器	深鉢	大木8b式期	1	国重文		深鉢	大木9式期	1	国重文
113号住居跡出土土器	浅鉢	大木8b式期	1	国重文		浅鉢	大木9式期	1	国重文
606号土坑出土土器	深鉢	大木8b式期	1	国重文		器台	大木10式期	1	国重文
300号土坑出土土器	深鉢	大木8b式期	1	国重文	78号住居跡出土土器	注口付浅鉢	大木10式期	2	国重文
	浅鉢	大木8b式期か？	1	国重文		深鉢	大木10式期	3	国重文
遺構外出土土器	鉢	大木8b式期	2	国重文	108号住居跡出土土器	浅鉢	大木10式期	1	国重文
	小型深鉢	大木8b式期	1	国重文	416号土坑出土土器	浅鉢	大木10式期	1	国重文
489号土坑出土土器	深鉢	大木8b式期	5	国重文	遺構外出土土器	浅鉢	大木10式期	1	国重文
459号土坑出土土器	浅鉢	大木8b式期	1	国重文					
複式炉の変遷									
資料名	器種	時期	点数	市町村	資料名	器種	時期	点数	市町村
天光遺跡出土土器	深鉢	大木8b式期	2	磐梯町	牛蛭遺跡出土土器	深鉢	越田和2群土器期	1	天栄村
馬場平B遺跡出土土器	深鉢	大木8b式期	1	田村市	高木遺跡出土土器	深鉢	越田和2群土器期	3	本宮市
前山A遺跡出土土器	深鉢	大木9式期	2	富岡町		注口付鉢	越田和2群土器期	1	
春田遺跡出土土器	深鉢	大木9式期	1	三春町	遺構外出土土器片		大木10式期-越田和2群土器期	8	
高木遺跡出土土器	深鉢	大木9式期	3	本宮市	上ノ台A遺跡出土土器	壺	大木10式期	1	飯舘村
深沢A遺跡出土土器	深鉢	大木9-10式期	1	天栄村			大木10式期	5	飯舘村
馬場前遺跡出土土器	深鉢	大木10式期	1	檜葉町			大木10新式期	1	
高木遺跡出土土器	注口付鉢	大木10式期	1	本宮市	上ノ台D遺跡出土土器	深鉢	称名寺式期	1	飯舘村
	深鉢	大木10式期	2		上ノ台D遺跡出土土器片		称名寺式期	2	飯舘村
田地ヶ岡遺跡出土土器	深鉢	大木10式期	1	二本松市	高木遺跡出土土器片		大木10式期	3	本宮市
塩沢上原A遺跡出土土器	深鉢	大木10式期	1	二本松市	北向遺跡出土土器	浅鉢	大木10式期	1	郡山市
北向遺跡出土土器	深鉢	大木10式期	2	郡山市			大木10式系統	1	本宮市
上ノ台A遺跡出土土器	深鉢	大木10式期	3	飯舘村	高木遺跡出土土器片		越田和2群土器期	3	
	深鉢	越田和2群土器期	2		越田和遺跡出土土器	両耳壺	越田和2群土器期	1	三春町
越田和遺跡出土土器	深鉢	越田和2群土器期	5	三春町	越田和遺跡出土土器片		越田和2群土器期	7	三春町
合計 145点									

どを図・写真を用いて示した。

③複式炉の変遷

複式炉の出現前夜から複式炉以後の後期初頭まで、富岡町前山A遺跡、本宮町高木遺跡、飯館村上ノ台A遺跡や三春町越田和遺跡など県内各遺跡にみられる複式炉及びその後に続く石囲炉とこれに伴う埋設土器の変遷を、写真と遺物で示した。また、複式炉の福島県内での分布状況や東北地方全域への拡散の状況、さらには複式炉以後、縄文時代後期初頭の東北地方において土器が小分布圏に分かれる状況などをパネルで示した。

3) 成果と反省

国指定重要文化財である法正尻遺跡の出土品を展示し、福島県の誇る質・量ともに優れた資料であることを感じてもらうという企画意図は成功したといえる。だが、今回展示した法正尻遺跡資料の大部分が複式炉前夜の大木8b式であったことは、テーマとした複式炉の盛衰からは乖離した感は否めない。

また、炉形の変化と土器の変遷を主眼に展示したことから、360°に土器が並ぶ状況となり、さらに、複式炉の使用法や製作された意味などの考古学の抱える課題に対して、明確に答えを提示しなかったことから、一部の観覧者には難解さや不満が感じられたようである。



「法正尻遺跡展3」

(4) 「戦後ふくしまの考古学—福島県学生考古学会の発足から福島県史の刊行まで—」
会期：令和4年1月22日(土)～5月8日(日)
(開催日数58日間)

観覧者数：1,749名

※開催日数、観覧者数は令和4年3月31日現在。

1) 趣旨

福島県では戦後間もなく、県内の高等学校で学ぶ学生を中心とした『福島県学生考古学会』が設立された。やがて学生会員の卒業生たちは県内の研究者とともに『福島県考古学会』を発足し、それら会員たちが学術調査はもとより、県内各地の開発にともなう不時の調査やその指導にあたった。今回の展示では、学生考古学会が設立した昭和20年代半ばから『福島県史』刊行ごろの昭和40年代にかけて、当時の史料と出土品に基づきながら、今日につながる文化財保護の基礎が形成された一端をふりかえった。

2) 展示の構成と内容

①福島県の戦後の考古学

戦後間もなく岩宿遺跡では旧石器時代の石器が発見され、登呂遺跡では本格的な弥生時代のムラが調査される。同じ頃の県内の動向として、首藤保之助氏の『採集日誌』と、そこに記載されるナイフ形石器等を紹介した。

②『福島県学生考古学会』の設立のころ

学生考古学会の設立に関連して「福島県学生考古学会設立趣意書」をはじめとする史料とともに、会員による音坊遺跡(福島市)や沼ノ沢古墳群(双葉町)等の発掘調査を紹介し、関連遺跡の出土資料を展示した。

③『福島県考古学会』の発足のころ

県考古学会の発足前後から昭和30年代に行われた発掘調査について、関連資料とともに紹介した。特に御代田遺跡から出土した弥生土器は、弥生時代初期のまとまった資料として報告され、研究者を中心に関心が高いことから会期中に初公開分も含めて展示替えを行った。

④『福島県史』刊行のころ

県史刊行に関連して、考古資料に関わる「通史編1 原始・古代・中世」「第6巻資料編」にも掲載される、天神原遺跡(楡葉町)や三株山遺跡(古殿町)等の発掘調査とともに関連資料を紹介した。

⑤懐かしの調査風景

県南を代表する研究者の岩越二郎氏に関連した資料など、白河市内の採集資料を中心に展示した。また、昭和40年代以前に撮影されたもの

3. 講演会等

(1) 館長講演会

令和3年度は、菊池徹夫館長による講演会を計4回開催した。5月に開催予定の講演会については、新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置により中止とした。また、講演会の映像を記録し、映像上映会を開催することで受講する機会を増やした。なお、第3回では、菊池館長が長年携わってきた北海道・北東北縄文遺跡群の世界遺産登録に至るまでの最終報告的な内容を講演した。



館長講演会

講演会等実施状況

館長講演会	演 題		実施日	受講者数	
	第1回	人類史と酒	令3.7.31	22名	
	第2回	日本人でどんな人たち—外国人から見た過去の日本—	令和3.9.18	17名	
	第3回	『縄文』が世界遺産になった！	令3.12.18	23名	
	第4回	考古ニュースを解説する	令4.2.26	18名	
文化財講演会等	演 題		講 師	実施日	受講者数
	縄文時代講座1「法正厩遺跡の特質」		本間 宏（白河館）	令3.5.15	19名
	縄文時代講座2「福島県出土の硬玉製大珠」「法正厩遺跡の外來系土器」		山本友紀（福島県教育庁文化財課） 山元 出（白河館）	令3.6.6	19名
	文化財科学講座1 シンポジウム「鉄の道をたどる」		笹澤泰史（群馬県地域創生部文化財保護課） 大道和人（滋賀県文化スポーツ部文化財保護課） 能登谷宣康（福島県文化振興財団遺跡調査部） 門脇秀典（白河館）	令3.8.21・22	35名
	文化財科学講座2 文化財科学最前線！ 「船原古墳出土遺物を対象とした三次元解析技術による構造調査」 「黒塚古墳から藤ノ木古墳へ至る古墳時代織物の材料と構造に実態」		小林 啓（福岡県立九州歴史資料館） 奥山誠義（奈良県立橿原考古学研究所）	中止	—
	縄文時代講座3「複式炉を考える」		森 幸彦（大熊町教育総務課）	令和3.10.23	23名
	縄文時代セミナー「縄文集落と葬制の画期」		小林 克（元秋田県埋蔵文化財センター） 菅谷通保（千葉市埋蔵文化財調査センター） 松本 茂（元福島県文化振興財団） 本間 宏（白河館）	令3.11.13・14	45名
	まほろん20周年記念講演会 「まほろんの20年とこれから」 「文化財を読み解き未来に伝える科学のチカラ」 「白河の歴史的風土」 「史実への迫り方—縄文前期から慶長五年まで—」		菊池徹夫（白河館館長） 中尾真梨子（白河館） 鈴木 功（白河市建設部文化財担当理事） 本間 宏（白河館）	令4.3.5	83名
	演 題		実施日	受講者数	
	ビデオ上映会	「講演会録画 縄文時代講座1・2」		令3.6.12	17名
「講演会録画 第1回館長講演会」		令3.8.14	2名		
「講演会録画 第2回館長講演会」		令3.9.25	3名		
「講演会録画 縄文時代講座3」		令3.11.20	12名		
「講演会録画 縄文時代セミナー」		令3.12.4・5	15名		
「講演会録画 第3回館長講演会」		令3.12.25	2名		
「講演会録画 第4回館長講演会」		令4.3.6	3名		

とみられる調査風景の写真を掲示し、ふせんにコメントを記入してもらった。

3) 成果と反省

今回の展示では、元福島県考古学会会長の故目黒吉明氏の業績を紹介し、個人保管されていたものをご遺族から借用して展示した。東日本大震災以降に体調を崩されて亡くなってから一定期間が過ぎていたこともあり、借用資料の基礎整理に手間取ってしまった。そのため展示準備に必要な時間や人員の配置が取れず、余裕のないまま開幕を迎えることになった。入力ミス等の指摘にもあったように、最終確認が十分でなかった。

展示内容は、目黒氏の保管資料を軸としているため中通り地方（県北地区）のものに偏ってしまったが、まほろん開館20周年の節目に文化財保護行政の黎明期をふりかえることができた。県内でも戦後の考古学ブームを背景に、各地で遺跡の調査や研究への関心が高まり、その後の文化財保護への取り組みや次世代の担い手たちの育成へとつながっている。改めて先人たちの業績に敬意を表したい。

「戦後ふくしまの考古学」展示資料一覧

アンケートの回答には、「考古学自体を対象にしているのがニッチで面白い」（解説パネルについて）「説明がもう少し詳しくてもよい」などの意見があり、一般の方々にもある程度の関心や理解が得られたようである。機会を設けて、今回は扱えなかった地域や対象、高度経済成長期に入った昭和40年代以降について、調査成果とともに文化財保護の取り組みを紹介する企画を検討したい。



「戦後ふくしまの考古学」

福島県の戦後の考古学					
資料名	所蔵	点数	資料名	所蔵	点数
阿武隈考古館 考古遺物蒐集録	須賀川市立博物館	1	成田遺跡 ナイフ形石器・石刃	須賀川市立博物館	3
『福島県学生考古学会』の設立のころ					
資料名	所蔵	点数	資料名	所蔵	点数
福島商業高等学校採集資料	個人蔵	42	沼ノ沢古墳群 5号墳 白玉	双葉町教育委員会	26
福島県学生考古学会 設立趣意書	個人蔵	1	沼ノ沢古墳群 5号墳 ガラス玉	双葉町教育委員会	2連
『しのぶ 第二号』福島県学生考古学会 福島支部報	個人蔵	1	日向道内遺跡 複式炉図	個人蔵	1
安達高等学校考古学会 発掘遺物調査書	個人蔵	1	宇輪台遺跡 縄文土器	個人保管	1
福島商業高等学校 報告書	個人蔵	1	宇輪台遺跡 石匙	個人保管	1
音坊遺跡ほか 三脚石器・土製品	個人保管	8	宇輪台遺跡 磨製石斧	個人保管	2
音坊遺跡 縄文土器	個人保管	1	宇輪台遺跡 打製石斧	個人保管	1
音坊遺跡 土偶	個人保管	1	上岡遺跡 土偶写真	個人蔵	1
福島県学生考古学会『長塚古墳群第一号墳発掘調査報告』	個人蔵	1	上岡遺跡 住居跡炉 土偶 写真	個人蔵	1
沼ノ沢古墳群 3号墳 須恵器壺	双葉町教育委員会	1	上岡遺跡 縄文土器片	個人保管	7
沼ノ沢古墳群 5号墳 勾玉	双葉町教育委員会	11	天神平遺跡 石棒ほか	個人保管	4
沼ノ沢古墳群 5号墳 管玉	双葉町教育委員会	8	天神平遺跡 縄文土器	個人保管	2
沼ノ沢古墳群 5号墳 切子玉	双葉町教育委員会	7			
『福島県考古学会』の発足のころ					
資料名	所蔵	点数	資料名	所蔵	点数
福島県考古学会『福島県考古学会々報 第一号』	個人蔵	1	御代田遺跡 弥生土器	個人保管	12
調査ノート	個人蔵	1	高塚（南大阪）古墳群 調査状況写真	個人蔵	4
目黒吉明「福島県田村郡御代田遺跡について」(抜刷)	個人蔵	1	田上遺跡 縄文土器	個人保管	9
『福島県史』刊行のころ					
資料名	所蔵	点数	資料名	所蔵	点数
県史関連パンフレット	個人蔵	8	古亀田遺跡 墨書土器「厨」	個人保管	1
県史関連記事写真	個人蔵	3	古亀田遺跡 須恵器甕	個人保管	1
県史刊行記念写真	個人蔵	2	柏山遺跡 弥生土器	個人保管	21
印刷用銅版	個人蔵	4	柏山遺跡 管玉	郡山市教育委員会	1連
天神原遺跡 弥生土器	個人保管	5	三株山麓遺跡 縄文土器	個人保管	5
古亀田遺跡 縄文土器	個人保管	5	三株山麓遺跡 遺跡調査報告書 下書き	個人保管	1
古亀田遺跡 土師器甕	個人保管	1	古殿町史編纂関連資料	個人保管	1
懐かしの調査風景					
資料名	所蔵	点数	資料名	所蔵	点数
白河の関周辺採集遺物 土師器	個人保管	3	金山村三森（現白河市表郷）採集遺物 石製模造品	個人保管	4
白河市内採集遺物 土師器	個人保管	2	中畑村（現矢吹町中畑）採集遺物 須恵器甕	個人保管	1
五箇村西ヶ原（現白河市）採集遺物 須恵器	個人保管	3	夏井廃寺 瓦	個人保管	1
合 計		238 点			

白河館山元出による「法正厝遺跡の外来系土器」の2本の講演を行った。

③縄文時代講座3

企画展「法正厝遺跡展3『複式炉の時代—縄文集落の画期—』」の関連企画で、大熊町教育総務課の森幸彦氏を講師に迎えた。複式炉の構造・存続時期・分布から、梅宮茂氏による「複式炉文化論」を骨子に、見出される縄文文化の変容などについて解説した。

2) 文化財科学講座1

企画展「文化財をよみとく科学のチカラ」の関連企画で、「鉄の道をたどる」と題したシンポジウムを2日間にわたって開催した。当財団遺跡調査部の能登谷宣康氏には「福島県の製鉄関連遺跡」と題して、本県の製鉄遺跡研究の総括を、白河館門脇秀典が「製鉄関連遺物をめぐる問題」と題して、これまでに実施した化学分析等の成果をまとめ、本県の古代製鉄技術の特徴を発表した。群馬県地域創生部文化財保護課の笹澤泰史氏は「群馬県の製鉄遺跡」と題して、その成立と関東地方への展開を中心に発表を行った。滋賀県文化スポーツ部文化財保護課の大道和人氏は「滋賀県の製鉄遺跡」と題して、近畿地方から東日本への鉄生産技術の波及と展開を中心に発表を行った。各発表後、本県への製鉄技術の波及をテーマに4人の発表者で討論を行った。



文化財科学講座1

3) 縄文時代セミナー

企画展「法正厝遺跡展3『複式炉の時代—縄文集落の画期—』」の関連企画で、「縄文集落と葬制の画期」と題したシンポジウムを2日間

にわたって開催した。元秋田県埋蔵文化財センターの小林克氏「北東北における環状列石の成立—環状列石の登場の意味と家族の在り方をめぐって—」、千葉県埋蔵文化財調査センターの菅谷通保氏「関東の縄文中・後期集落と墓制」、元財団遺跡調査部の松本茂氏・白河館本間宏「法正厝遺跡と福島県の様相」の各発表の後に縄文時代中・後期の集落と葬墓制についての討論を行った。



縄文時代セミナー

4) まほろん20周年記念講演会

まほろん20周年を記念する講演会を行った。内容は、菊池徹夫館長による「まほろんの20年とこれから」、白河館中尾真梨子による「文化財を読み解き未来に伝える科学のチカラ」、白河市鈴木功氏による「白河の歴史的風土」、白河館本間宏による「史実への迫り方—縄文前期から慶長五年まで—」。



まほろん20周年記念講演会

5) 映像上映会

上記の館長講演会及び文化財講演会等の様子の録画映像の上映会を計7回実施した。

4. 体験学習・イベント

令和3年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、感染症対策を講じながらの運用となった。

それぞれの体験活動では、基本的な感染症対策（マスク着用、手指消毒）とともに、職員や参加者どうしの接触や近距離での活動が最小限となるよう、原則非接触での対応に努めた。具体的には、少人数（同居家族）での対応、動線を含めた職員、参加者の活動範囲の設定、道具の受け渡しや共有を控えるなどである。合わせて室内の換気と道具類の消毒を徹底した。

(1) いつでもできる体験学習

1) 個人利用者対象メニュー

常設の体験スペースである体験活動室を中心に、個人の来館者を対象に実施しているメニューである。（平成30年度までの「体験活動室メニュー」）今年度も、例年ならば通年で実施している「勾玉づくり」「管玉づくり」「火おこしに挑戦」や、月ごとの複数メニューの提供は見送らざるを得なかった。

「勾玉づくり」と「火おこしに挑戦」は前年度と同様に曜日替わりとし、「勾玉づくり」は各回2組（1組最大2名）までの時間制、「火おこしに挑戦」は1名ずつの完全入替制とした。ただし、火おこしの体験は感染症の拡大状況に合わせて中止し、その期間（R3.8.17-10.31、R4.1.27-3.31）は勾玉作りの体験に置き替えた。会場は、どちらの体験も体験広場南口のテラスで行っていたが、天気や気温に左右されることから勾玉作りの体験は講堂や研修室に移し、常時換気とアクリル板によるパーティションを設置して対応した。

「まほろんクイズラリー」は、展示に係る問題を解きながら屋内外を巡るメニューで、3か月ごとの春夏秋冬の4回に内容を変えて実施した。正面玄関入口に回答用紙、プロムナード中央に解答と特典シールを置き、職員との接触なしで参加できるようにしている。

月ごとのメニューは、収蔵資料や季節の行事

に関連させた有料メニューを実施した。感染症対策のため、1組（最大2名）ずつの対応とした。原則無料メニューは前年度と同様に中止したため、ホームページで紹介されるペーパークラフト類を持ち帰り用キットとして提供した。



「火おこし」

実施した有料メニューは、少人数ずつの体験のため内容や時間が制限されることから、新たに企画したものや、体験内容を替えて準備したものがほとんどである。その中でも、柿渋でエコバッグを絞り染めした「染色体験」や企画展の展示資料を参考にした「土器ランプシェードづくり」が好評であった。また、まほろん20周年の記念として、まほろんを象徴する土偶や勾玉等のモチーフを吊り下げた「まほろんガーランドづくり」を企画した。



「正月飾り作り」

個人利用者対象メニューの内容と体験者数は別表のとおりである。小中学生の長期休み期間中や感染症が落ち着いた秋以降には一定の体験者数があつたが、感染状況によって見通しが立たない状況が続いている。

個人利用者対象メニュー実施状況

実施期間	内容（体験料）	参加人数
4/1～4/29	縄文フォトフレームづくり（300円）	31名
5/1～5/30	磨製石斧づくり（100円）	89名
6/1～6/30	貯蔵バキューブペン立てづくり（300円）	46名
7/1～7/31	うちわづくり（250円）	37名
	七夕短冊づくり（無料）※7/1～7/7実施	-
8/1～8/31	染色体験（300円）	90名
9/1～9/30	織物体験 キャンディタワーづくり（100円）	39名
10/1～10/31	土器ランプシェードづくり（100円）	76名
11/2～11/30	まほろんガーランドづくり（100円）	66名
12/1～12/26	正月飾りづくり（200円）	65名
1/5～1/30	凧づくり（150円）	65名
2/1～2/27	土器ランプシェードづくり（100円）	12名
3/1～3/31	ミニはにわ赤彩体験（力土100円、家型200円）	66名
季節実施メニュー	まほろんクイズラリー（春）4・5・6月（無料）	180名
	まほろんクイズラリー（夏）7・8・9月（無料）	196名
	まほろんクイズラリー（秋）10・11・12月（無料）	127名
	まほろんクイズラリー（冬）1・2・3月（無料）	178名
通年実施メニュー	勾玉づくり（有料）	325名
	火おこしに挑戦（無料）	182名
合計		1,870名

2）団体利用者対象メニュー

事前予約の必要な団体利用者向けの体験メニューは、令和3年度も十分な感染症対策が取れないことから展示見学のための受け入れとなった。

（2）募集型体験学習

1）実技講座

考古資料や福島県内を中心とした伝統文化に関連した「モノづくり」を通して、原始・古代の技術を追体験することを目的とした、事前申込制の個人向けの体験講座である。令和3年度は6講座を実施した。

講座の内容としては、「土器づくり初級編」「土器づくり上級編」のほか、X線CT撮影の調査成果を参考にした「土偶づくり」など当館収蔵の考古資料を活用したものを中心に行った。

特に「土偶づくり」では接合痕が確認されたことから、参加者に対して具体的な製作工程を紹介することができた。その他、令和2年度から引き続き外部講師を招聘しての「大堀相馬焼に挑戦」や古代のガラス技術の操業実験を行っ

た「ガラスづくり」を実施した。

また、上半期にはコロナ禍での需要を期待してネット配信での「おうちで土器づくり」を企画したが、参加者数はあまり伸びなかった。

実技講座実施状況

講座名	実施日	参加人数
大堀相馬焼に挑戦①土型・印花づくり	令3.8.8	12名
大堀相馬焼に挑戦②皿づくり	令3.8.29	12名
土偶づくりにチャレンジ	令3.10.3	8名
土器づくり初級編	令3.10.31	8名
土器づくり上級編①成形	令3.12.11	8名
土器づくり上級編②成形・施文	令3.12.12	8名
土器づくり上級編③ミガキ調整	令3.12.14-16	延12名
ガラスづくり①坩堝づくり	令4.2.13	3名
ガラスづくり②操業実験	令3.1.27	3名
土器づくり上級編④野焼き	令3.3.20	中止
おうちで土器づくり		12名
合計		86名

2）まほろんイベント・特別体験など

感染症が終息する見通しが立たなかったことから、不特定多数が集まるようなイベントや特別体験は自粛した。ただし、11月6日（土）・7日（日）には毎年恒例となっているアクアマリンふくしまからの移動水族館を招いたことから、関連企画として2日間限定で特別展示室を中心としたクイズラリーを企画し、参加賞としてオリジナル缶バッジを用意した。



「クイズラリー」

移動水族館「アクアラバン」

11月6日（土）・7日（日）	内容（体験料）	参加人数
アクアラバンがやってくる	〔アクアラバン〕 移動水族館（無料）	440名
	縄文土器・土偶クイズラリー（無料）	176名

3）まほろん森の塾

『まほろん森の塾』は、小・中学生を募集対象として実施する通年型の体験学習講座である。昔のくらしや技術を体験することにより、文化

財に対する理解と生きる力を身に着けることを目的にしている。開館から続く講座で、令和3年度は21期生として塾生を迎えることができた。

そこで当初から開館20周年記念行事への参加を計画し、記念企画となる展示内容との関連性から〈縄文土器〉をテーマとした全5回の講座として実施した。初回には企画展で展示される縄文土器の文様を観察し、2回目以降では縄文土器を製作し、野焼きを行った。野外の体験広場に植えられる縄文時代からの有用植物を観察し、土器を使った煮炊きにも挑戦した。また、開館20周年記念式典に合わせたミニ展示では製作した土器を披露した。

感染症対策で十分な時間が取れない部分もあったが、内容に連続性を持たせ、成果が発表できたことから理解や達成感が得られたようだ。

まほろん森の塾実施状況

内容	実施日	参加人数
第1回 入塾式ほか	令3.6.20	8名
第2回 縄文土器づくり	令3.8.1	8名
第3回 土器野焼き・植物観察ほか	令3.9.19	8名
第4回 20周年記念式典・企画展開幕式	令3.10.16	7名
第5回 火おこし・土器使用体験・修了式	令3.11.21	8名
合計		39名



まほろん森の塾

(3) 館外体験学習事業

『おでかけまほろん』として、県内の学校や社会教育施設における体験学習を支援するための事業である。まほろんへの来館が困難であるなどの理由で申請のあった学校や諸施設に対して、白河館職員が収蔵資料や体験学習資材を携えて出向き、文化財や地域の歴史に対する理解を深めることを目的としている。

体験活動の内容は、実施校・施設で事前に担当者と打ち合わせを行い、「土器や石器を観察しよう」を必須として、感染症対策を考慮しながら「火おこしに挑戦」「勾玉づくり」の他、先方の希望により「弓矢体験」などを加えて実施した。

おでかけまほろん実施状況

No.	学校・施設名	学年・科目	体験内容	実施日	参加人数
1	福島県立たむら支援学校 高等部	高1、社会科	阿武隈地域の歴史について知ろう・土器や石器の観察をしよう	5月13日(木)	10名
2	二本松市立川崎小学校	小6、社会科	土器や石器を観察しよう・火おこしの実演	5月27日(木)	21名
3	福島県立聴覚支援学校 会津校	小3、6 社会科	土器や石器を観察しよう・火おこしに挑戦	5月28日(金)	中止
4	飯館村立いいたて希望の里学園 前期課程	小6、社会科	土器や石器を観察しよう・火おこしに挑戦	6月16日(水)	5名
5	喜多方市立駒形小学校	小6、社会科	土器や石器を観察しよう・火おこしの実演	6月23日(水)	13名
6	南相馬市立石神第二小学校	小6、社会科	土器や石器を観察しよう・勾玉づくり	7月8日(木)	44名
7	南会津町立松沢小学校	小6、社会科	土器や石器を観察しよう・火おこしに挑戦	7月14日(水)	9名
8	福島県立会津支援学校 竹田校	小6・中2、社会科	〔オンライン開催〕土器や石器を観察しよう・勾玉づくり	9月1日(水)	3名
9	いわき市立内郷第二中学校	中1、社会科	土器や石器を観察しよう・白水阿弥陀堂等周辺遺跡の講話	9月8日(水)	中止
10	桑折町中央公民館 こおりキッズスクール	小4～6	土器や石器を観察しよう・勾玉づくり	9月26日(日)	15名
11	大玉村公民館 わんぱく広場	小3	大玉村歴史民俗資料館常設展示の解説・勾玉づくり・火おこしに挑戦	10月23日(土)	25名
12	いわき市立長倉小学校	小6、社会科	学校周辺の文化財の紹介・火おこしに挑戦・勾玉づくり	10月28日(木)	22名
13	会津美里町 宮川生涯学習センター	小2・3・6、青少年講座	土器や石器を観察しよう・勾玉づくり	11月6日(土)	11名
14	塙町公民館 はなわ探検隊	小1～6、体験活動	土器や石器を観察しよう・勾玉づくり	11月14日(日)	38名
15	福島県立あぶくま支援学校 中等部	中2、生活科	土器や石器を観察しよう・火おこしに挑戦・弓矢体験	12月1日(水)	24名
16	福島大学附属特別支援学校	高1～3、総合	土器や石器を観察しよう・火おこしを見てみよう・勾玉づくり	12月8日(水)	30名
17	福島県立西郷支援学校 高等部	高1～3、総合	土器や石器を観察しよう・勾玉づくり	1月20日(木)	17名
合 計					287名

17校・施設を選定して実施に向けて準備していたが、感染症の拡大により福島県立聴覚支援学校会津校、いわき市立内郷第二中学校の2校は計画を中止した。また、福島県立会津支援学校竹田校は学校側のシステムを活用してオンラインで実施した。



おでかけまほろん

5 文化財に関する情報発信

1. ホームページによる情報発信

令和3年度のホームページアクセス数の推移を下表に示した。年間総アクセス数は35,272件であった（前年度：38,737件）。

なお、平成13年7月14日のホームページ開設以来の累計アクセス数は、89万件を超えた。

ホームページアクセス数

	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	3,283	860,486
5月	3,167	863,653
6月	3,251	866,904
7月	3,569	870,473
8月	3,663	874,136
9月	3,023	877,159
10月	3,174	880,333
11月	2,756	883,089
12月	2,602	885,691
1月	2,095	887,786
2月	2,266	890,052
3月	2,423	892,475
合計	35,272	

◆全国遺跡報告総覧

埋蔵文化財の発掘調査報告書を全文電子化して、インターネット上で検索・閲覧できる

「全国遺跡報告総覧」に福島県教育委員会が刊行した文化財調査報告書、福島県文化財センター白河館が刊行した刊行物等を掲載している。令和4年3月31日時点で、文化財調査報告書164件、白河館の刊行物等97件を公開している。

2. SNSによる情報発信

令和2年度から、SNSの運用を正式に開始した。運用しているSNSは、「Instagram」、「Youtube」の2つである。

◆Instagram

毎週水曜日・土曜日の2回の更新を基本として運用している。記事は職員の輪番制で作成し、展示や体験活動の様子を公開している。令和4年3月31日時点でのフォロワー数は857名である。

◆Youtube

企画展関連動画を中心に発信している。令和4年3月31日時点でのチャンネル登録者数は69名、動画の再生回数は5,116回である。

3. まほろん通信の発行

令和3年度は、年4回発行した。発行日は、4月14日・7月7日・10月13日・1月26日で、各4,000部を発行し、ホームページ上にも掲載した。概要は、以下のとおりとなっている。

（1）まほろん通信vol.79(春号4月14日発行)

- ・「まほろん開館20周年を迎えて」
- ・「おしえて！法正尻遺跡展2 担当チームメンバーインタビュー」
- ・「しらべてみたよ」
- ・「実験考古学のススメ」

（2）まほろん通信vol.80(夏号7月7日発行)

- ・「企画展『文化財をよみとく科学のチカラ』担当者インタビュー」
- ・発掘よもやま話「丘の上の小さな砦」
- ・「赤外線写真でよみとく文字資料」
- ・思い出まほろん「野外展示ができるまで 担当職員に聞く」

（3）まほろん通信vol.81(秋号10月13日発行)

- ・館長インタビュー「世界文化遺産『北海道・北東北の縄文遺跡群』と法正尻遺跡展」
- ・「図録 法正尻遺跡」

- ・思い出まほろん「海を渡った土偶 担当職員に聞く」
- ・「古代の郡役所でも一般集落でもない遺跡」
(4) まほろん通信vol.82(冬号 1月26日発行)
- ・「まほろん20周年記念企画展『戦後ふくしまの考古学』—福島県学生考古学会の発足から福島県史の刊行まで—」
- ・新収蔵資料紹介「伊達市荒屋敷遺跡出土の髹」
- ・まほろん森の塾 活動レポート
- ・思い出まほろん「まほろん開館の頃」



まほろん通信vol.82

6 文化財に関する研修及び技術支援

1. 概要

文化財関係業務を担当する市町村等の職員を対象に、文化財の保護・活用に必要な知識と技術を習得するための基礎研修・専門研修を行った。令和3年度は、文化財の収蔵環境に関する課題や、コロナ禍におけるミュージアム活動、地域に残る文化財の掘り起こしと保存・活用をテーマとする研修を実施した。このうち、文化財活用研修については、福島県博物館連絡協議会との共催とし、市町村文化財担当者だけでなく、協議会加盟館まで対象を拡大し、オンラインを併用して開催した。

特別研修は、市町村からの求めに応じて、館内外で臨時的に実施した。内容は福島県小学校教育研究協議会におけるパネラー、喜多方市藤権現遺跡出土品に関する指導などである。

市町村文化財担当職員への技術支援については、文化財の保存に関する技術について、市町村等からの要望に応じて、当館職員を現地に派遣して助言や協力を行うものである。2団体に対して計3回実施した。また、福島県文化振興財団が調査を受託する川俣町前田遺跡の脆弱遺物の保管及び保存処理に係る指導も実施した。

2. 研修実施状況

(1) 基礎研修

基礎研修として「文化財保護行政実務者研修」、「文化財活用研修」を開催した。文化財の保護・活用における実務をテーマとし、各参加者が発言可能な懇談形式及び実習を伴う内容とした。また、市町村の文化財担当が公務出張にできるよう開催日を平日に設定した。

①「文化財保護行政実務者研修」

テーマを「文化財の収蔵・保管環境について」とし、7月8日(金)に開催した。県内自治体の先進事例の報告の後、参加者がそれぞれの自治体で抱える悩みや問題点を発表したのち、懇談形式で意見交換を行った。7市町村7名の参加があった。



文化財保護行政実務者研修

②「文化財活用研修」

福島県博物館連絡協議会との共催で、シンポジウム「新しい生活様式下のミュージアム体験活動」を、8月26日(木)に開催した。大安場

史跡公園・じょもびあ宮畑・いわき市考古資料館・福島県立博物館・南相馬市博物館・ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）・白河館による事例報告の後、各施設の「コロナ対策の共有」と「アフターコロナのミュージアム活動」についてオンライン討論を行った。18施設27名の参加があった。



文化財活用研修



文化財活用研修ウェビナー

（２）専門研修

専門研修として「文化財保護指導者研修会」、「文化財担当者専門技術研修」２回を開催した。

①「文化財保護指導者研修会」

市町村の文化財保護審議委員等を対象に、毎年会場を変えて行う研修会である。令和３年度は、富岡町を会場として、「地域文化財の保存

の方向性」をテーマとし、10月21日（木）・22日（金）に実施した。１日目は、福島県教育庁文化財課轡田克史氏による「福島県文化財保存活用地域計画のあり方」、人間文化研究機構国文学研究資料館西村慎太郎氏による「福島県浜通り地方における大字誌編纂の取組みと意義」、富岡町教育委員会門馬健氏による「歴史文P Tと『震災遺産保全等に関する条例』の経緯」、富岡町教育委員会三瓶秀文氏による「地域再発見と『保存活用』ーとみおかアーカイブ・ミュージアムが目指すものー」の講義を行った。

２日目は、とみおかアーカイブ・ミュージアムの展示・バックヤード視察を行った。参加者は延べ95名だった。



文化財保護指導者研修会

②「文化財担当者専門技術研修」

文化財担当者に対する専門技術の習得を目的とした研修で、「脆弱遺物の取り扱い」をテーマとし、1月20日（木）に開催した。募集対象を県内各市町村の文化財担当部署・博物館・資料館、公社・事業団等において文化財の調査を行う職員とした。白河館中尾真梨子による「脆弱遺物の取り扱いについて」の講義、実習を行った。2市町村4名の参加があった。

文化財研修実施状況

区分	研 修 名	講 師 等	実施日	受講者数	場所
基礎研修	文化財保護行政実務者研修	吉田博行（会津坂下町教育委員会） 今野賀章（伊達市教育委員会）	令3.7.8	7名	白河館
	文化財活用研修	大安場史跡公園・じょもびあ宮畑・いわき市考古資料館・福島県立博物館・南相馬市博物館・ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）・白河館	令3.8.26	27名	白河館
専門研修	文化財保護指導者研修会	轡田克史（福島県教育庁文化財課） 西村慎太郎（国文学研究資料館） 門馬健（富岡町教育委員会） 三瓶秀文（富岡町教育委員会）	令3.10.21 ～22	延べ 95名	富岡町
	文化財担当者専門技術研修	中尾真梨子（白河館）	令4.1.20	4名	白河館

（３）特別研修

臨時館内研修２回と臨時館外研修６回を実施した。臨時館内研修は、古殿町教育委員会からの依頼で６月２日（火）「文化財保護審議員に係る研修」、浅川町教育委員会からの依頼で７月２０日（火）「体験学習指導員研修」、臨時館外研修は、石川町教育委員会からの依頼で８月２７日（金）「歴史民俗資料館移転整備に係る指導」、喜多方市教育委員会からの依頼で９月２８日（火）「藤権現遺跡出土品に関わる指導」、福島県小学校研究協議会社会科研究部会からの依頼で１０月５日（火）に「パネルディスカッション『福島の未来を担う人材育成と社会科の教材開発』パネラー」、伊達市教育委員会からの依頼で１２月１７日（金）「被災資料保全のための指導」、郡山市教育委員会からの依頼で１２月２１日（火）に「郡山市指定文化財の保存に関する指導」、大熊町教育委員会からの依頼で、２月１６日（水）「社会教育複合施設整備等に係る指導」を行った。

３．技術支援状況

市町村の文化財担当職員を対象とする技術支援を２自治体計３回行った。

その内訳は、資料に付着する赤色顔料の蛍光X線分析、脆弱遺物の保存処理、展示環境についての助言、土層断面剥ぎ取り資料の保管環境についての助言であった。

７ 文化財の活用に関する調査研究

１．文化財の調査

白河館に収蔵されている金属製品、木製品、土器、土製品等について、X線CT等による詳細観察と理化学的分析を実施する事業である。

令和３年度は昨年度に引き続き、荒小路遺跡出土土偶ほかのX線CT透過撮影による構造調査、蛍光X線分析による材質調査を実施した。

２．体験学習における試み

実技講座「土偶づくりにチャレンジ」では、X線CTによる構造調査の成果を活用した。その他、ガラスの製作実験、布の染色など、考古学や民俗学等の成果を加味した体験学習メニュー

一を考案して実施した。

３．文化財等に関する情報収集

（１）研修会等への参加

福島県博物館連絡協議会主催の研修会等において最新の情報収集を行った。

（２）アンケート調査の実施

市町村文化財行政の現状と課題を把握するためのアンケート調査を２回行った。

４．研究紀要

「収蔵資料に関する理化学的分析（２０２１年度）」等を収録した『研究紀要20』を５００部作成して関係機関に送付し、ホームページで公開した。

８ 出土文化財の保存処理

令和３年度は、福島県教育委員会が実施した発掘調査により出土した木質・金属質遺物等について、劣化防止等業務、保存処理業務、分類・データベース入力業務を実施した。

１．劣化防止等業務

次の方法により、４,２６９件の劣化防止措置を行った。

（１）木質遺物

３,２８０件の劣化防止措置を行った。

水浸保存を図っている木質遺物（以下、水浸け遺物）は、劣化状態等の確認を行い、バクテリア等の劣化を促進させる付着物が発生している遺物については、筆等による除去及び洗浄を行った。洗浄を終えた水浸け遺物は、新たな保存液を入れなおし、可能な限り脱気した状態で封入した。

また、水浸け遺物の劣化状態を客観的に把握するため、推定含水率を測定した。

（２）金属質遺物

７９０件の劣化防止措置を行った。

脱酸素剤封入済みの金属遺物について、遺物の形状変化及び無酸素状態指示剤の変色度合いの確認を行った。無酸素状態指示剤に青色の変色が確認された遺物は、脱酸素剤及び無酸素状

態指示剤を交換した。

その他、腐食（錆）の進行の要因となる付着物（土壌や錆）を除去するクリーニング作業を行った。

（３）動植物遺存体

木質遺物と同様の判断基準に従い199件の劣化防止措置を行った。

劣化状態及び現有数の再確認作業を行い、その結果をもとに台帳整理を行った。

劣化防止措置実施状況

劣化防止数	
4,269 件	
内訳 木質遺物	3,280 件
金属質遺物	790 件
その他（動植物遺存体）	199 件

２．保存処理業務

115点の保存処理を行った。このうち、白河館の施設・設備で処理を行うことが困難な25点（今神遺跡ほか出土木質遺物2点、駒板新田横穴群ほか出土金属質遺物23点）については専門業者に委託した。その他の90点（西木流C遺跡ほか出土木質遺物35点、堀ノ内遺跡ほか出土金属質遺物55点）については以下の手順により白河館内で保存処理を行った。

（１）木質遺物

木質遺物の保存処理は、その資料の樹種、状態、器種等によって処理方法を変える必要がある。そのため、ポリエチレングリコール含浸法と凍結真空乾燥法で処理可能な資料を選択した。ポリエチレングリコール含浸法は、①事前調査②樹種同定③脱鉄④薬剤含浸⑤取り上げ・固化⑥表面処理⑦記録作成の工程で行った。

凍結真空乾燥法は、①事前調査②樹種同定③脱鉄④薬剤含浸⑤予備凍結・真空乾燥⑥表面処理⑦記録作成の工程で行った。

（２）金属質遺物

金属質遺物は全て青銅製であったため、①事前調査②クリーニング③安定化処理④記録作成の工程で保存処理を行った。

事前調査では遺物の現状確認のほか、X線透過撮影による構造等調査、蛍光X線分析による

定性分析等を行った。

保存処理業務実施状況

保存処理数	
115件	
内訳 木質遺物	37件
金属質遺物	78件

３．分類・データベース入力業務

データベースの入力および分類業務は、報告書未掲載の鉄製品についての分類データベースを600件入力した。

９ ボランティア活動の支援

１．募 集

令和3年度は、前年度同様、ボランティアを随時募集し、月毎に登録を行った。

申し込み資格は、①令和3年4月1日現在で16歳以上、②無償で活動できる方（保険料は白河館負担）である。

２．登 録

ボランティアの名称を『まほろんボランティア』と呼び、登録形態は「個人登録ボランティア」としている。ボランティアの登録者数は31名である。

まほろんボランティア登録状況

令和3年度登録者数	31 名 (男性 15 名・女性 16 名)
内訳	
1. 最年少	21 歳
2. 最年長	84 歳
3. 平均年齢	60 歳
(令和4年3月31日現在)	

３．活動内容

令和2年1月頃からの新型コロナウイルスの感染拡大により、令和3年度のボランティア活動は大幅な制限を余儀なくされた。

例年行っているボランティア活動のうち、屋内展示・野外展示の案内・解説、展示業務への参加、体験学習活動（実技講座・団体対応等）への協力、イベントの自主企画及び運営、体験学習器材の製作等は、いずれも感染防止の観点から実施を見送ったが、野外展示施設の火焚き

燻蒸と、企画展「戦後ふくしまの考古学」に伴う資料整理の補助等を行った。

このほか、企画展に関連する研修会を4回実施した。



まほろんボランティア連絡会

4. 支援体制

白河館のボランティア活動は、昼食や交通費を支給しない無償・無給制を原則としている。しかし、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休憩場所の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。

また、学芸課に3名のボランティア担当者を配置し、スケジュールや活動内容の調整を行っている。意見交換の場として、令和3年度は計3回の会合（まほろんボランティア連絡会）を開催した。

10 その他

1. 年報の発行

令和2年度の館の管理運営実績をまとめた『年報～令和2年度実績～』を作成し、市町村教育委員会や学校等の関係機関に配布した。

2. 運営協議会の開催

館長の諮問機関として、福島県文化財センター白河館運営協議会を組織し、会議を開催した。

なお、令和3年度の委員6名は次のとおり。

- ・日下部善己：元二本松市立岳下小学校長、再任
- ・柳沼 賢治：福島大学客員教授、再任
- ・平出美穂子：元郡山女子大学准教授、再任

- ・井上久仁夫：西白河小中学校長連合協議会長
- ・井上 健一：白河市建設部文化財課長
- ・金子 豊：国立那須甲子青少年自然の家所長

（1）第1回運営協議会

開催日：令和3年11月5日（金）

場 所：講堂

議 事

- ・令和2年度白河館の事業実績について
- ・令和3年度白河館事業計画の変更について
- ・令和3年度白河館の運営状況について
- ・その他

（2）第2回運営協議会

開催日：令和4年3月12日（土）

場 所：講堂

議 事

- ・令和3年度白河館の運営状況について
- ・平成4年度白河館の事業について
- ・その他

3. 博物館実習

県内の大学生や、県内出身者で県外の大学に通う大学生を対象に、館内において博物館実習を行った。

資料の取扱いをはじめとする学芸業務の実習に加え、展示実習として、常設展示室のコーナー展のテーマ設定から設営までを行い、展示制作の流れを学んだ。

その成果は「博物館実習生によるコーナー展『南相馬市赤柴遺跡の縄文土器』」と題し、令和3年9月12日～令和4年3月27日まで展示した。



博物館実習

4. 産業現場実習

令和3年6月8日～11日に福島県立白河実業高等学校より、計2名の生徒を受け入れ、職業体験実習を実施した。感染症拡大防止の観点から昨年度の実習は中止となったが、令和3年度は学校側と協議の上、半日のみ・4日間の日程での実習を行った。

5. 被災ミュージアム再興事業

福島県教育委員会からの委託事業として、被災ミュージアム再興事業を実施した。

原子力災害による避難指示区域内の資料館から白河館仮保管施設に移送された文化財について、資料の修理安定化、データベース入力、応急劣化防止作業などを実施した。

富岡町の資料については、とみおかアーカイブミュージアムの開館に伴い、令和3年6月4日（金）に全件返却した。

6. 他機関との連携

自治体・教育普及機関・研究機関等と連携して、以下の事業を実施した。

（1）まほろん移動展の実施

1）「ようこそ！古墳時代へ」

内容：令和2年度に実施した同名の企画展ダイジェスト的に展示したもので以下の2カ所で開催した。

①須賀川市立博物館

会期：令和3年4月13日（火）～6月2日（水）

観覧者数：1,164名



まほろん移動展「ようこそ！古墳時代へ」福島県立図書館

②福島県立図書館

会期：令和3年6月4日（金）～6月30日（水）

観覧者数：11,602名

2）「白河市天王山遺跡が国指定史跡へ！」

内容：白河市立図書館での「りぶらんまつり」開催に合わせ、史跡指定候補として選定を受けていた天王山遺跡を紹介する展示を開催した。

会期：令和3年7月24日（土）～7月25日（日）

観覧者数：1,373名

（2）ふくしま海洋科学館との連携

1）移動水族館（アクアラバン）開催

実施日：令和3年11月6日（土）・11月7日（日）

場所：白河館正面玄関前

観覧者数：440名



移動水族館（アクアラバン）

（3）その他

1）館外イベントへの出展は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、不特定多数を対象とした体験活動の実施を控えたため、実施しなかった。

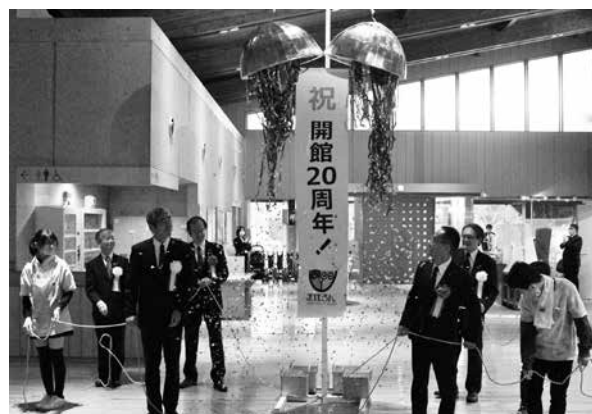
2）「文化財に係る災害時の応援活動支援に関する協定」に基づき、災害発生時の情報提供などを行った。また、「福島県被災文化財等救援本部」の一員として東日本大震災による被災文化財保護活動記録集作成などに参加したほか、

「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」等の活動を支援した。

3) 日本博物館協会のWebサイトと月刊誌『博物館研究』に白河館に関する情報を提供した。また、福島県博物館連絡協議会とは、文化財活用研修「新しい生活様式下のミュージアム体験活動」（オンライン併用開催）を共催したほか、理事館として、県内博物館等の連携構築等に努めた。

4) 白河観光物産協会やNPO法人カルチャーネットワーク等と連携して白河館の情報を発信した。また、東北デスティネーション・キャンペーンに、館内におけるポスターの掲出、デジタルスタンプラリーのスタンプスポット設置などの協力を行った。

5) 5月22・23日にとうほう・みんなの文化センターで開催予定であった文化財保存修復学会第43回大会（新型コロナウイルス感染症の拡大状況により現地開催は中止）の実行委員会の一員として協力した。



開館20周年記念式典

〔記念企画展開幕式〕

見どころ紹介	白河館長	菊池 徹夫
	まほろん森の塾生2名	
テープカット	福島県教育委員会教育長	
	鈴木 淳一	
	財団理事長	大沼 博文
	白河館長	菊池 徹夫
	まほろん森の塾生2名	

企画展オープン

7. 開館20周年記念式典・記念企画展開幕式

開催日：令和3年10月16日（土）

時 間：〔開館20周年記念式典〕

午前10時30分～10時50分

〔記念企画展開幕式〕

午前10時50分～11時00分

場 所：福島県文化財センター白河館

〔開館20周年記念式典〕

講堂・エントランスホール

〔記念企画展開幕式〕

プロムナードギャラリー

内 容：

〔開館20周年記念式典〕

式 辞 白河館長 菊池 徹夫

あいさつ 福島県知事（代理）

副知事 井出 孝利

来賓祝辞 福島県会議長 渡辺 義信

白河市長（代理）

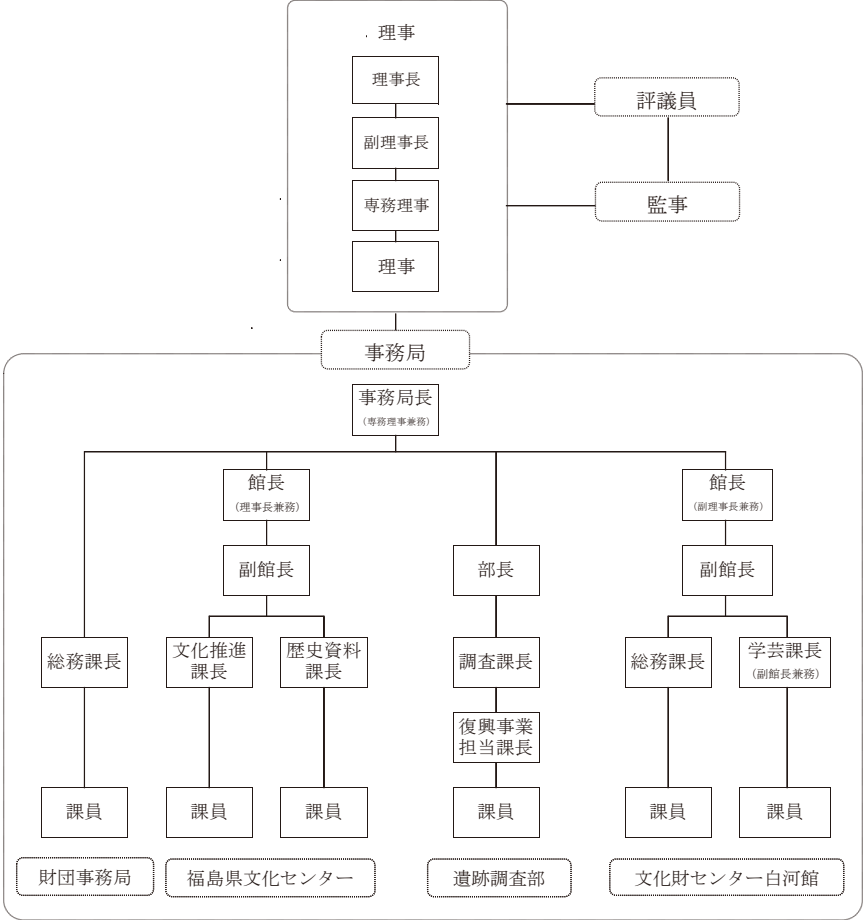
副市長 圓谷 光昭

くす玉割り エントランスホールにて

出席者 県副知事・県会議長・白河副市長・県教育長・白河館長・まほろん森の塾生3名

第3章 令和3年度の組織と管理運営費

1 組 織



職員名簿

職 名		氏 名	職 名		氏 名
館 長		菊 池 徹 夫	学 芸 課	副主任学芸員	鶴 見 諒 平
副館長（総務担当）		鈴 木 秀 明		副主任学芸員	中 尾 真梨子
副館長（業務担当）		本 間 宏		学芸員	和 知 千 紘
総務課	課 長	山 田 幸 則		学芸員	河 西 久 子
	主任主査	佐 藤 憲 夫		学芸員	武 熊 野の香
	臨時職員	長 田 ちひろ		学芸員	岸 浪 文 香
	臨時職員	松 本 夏 樹		学芸員	青 木 愛 子
学芸課	課長（副館長兼務）	本 間 宏		学芸員	中 山 千 尋
	主 幹	山 元 出		臨時職員	佐 藤 百合恵
	副 主 幹	福 田 秀 生		臨時職員	原 宏 子
	専門学芸員	大 山 孝 正		臨時職員	松 浦 里 美
	専門学芸員	門 脇 秀 典		臨時職員	鈴 木 未 来
	専門学芸員	菅 原 祥 夫		臨時職員	久保木 裕 子
	主任学芸員	廣 川 紀 子		職員総数 26名	

（令和4年3月31日現在）

2 白河館管理運営費

・ 指定管理者委託料 271,805千円

第4章 白河館施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館

(愛称：まほろん)

所在地：〒961-0835

福島県白河市白坂字一里段86番地

設置者：福島県

開館：平成13年7月15日

管理者：公益財団法人福島県文化振興財団

◎建築概要

1. 敷地面積：51,827.51㎡
2. 建築面積：本館・収蔵庫棟 5,866.328㎡
体験学習館 133.627㎡
3. 延床面積：本館・収蔵庫棟 5,399.815㎡
(本館2,400.046㎡、収蔵庫棟 2,999.769㎡)
体験学習館 92.71㎡
4. 構造
 - ①本館棟 鉄筋コンクリート造
 - ②収蔵庫棟 鉄骨造
 - ③体験学習館 木造
5. 駐車台数等
 - ①一般駐車場 91台
(うちおもいやり駐車場4台)
 - ②大型車駐車場 10台
 - ③職員駐車場 21台
 - ④駐輪場 28台
6. 地域地区：都市計画区域内、無指定

◎設備概要

1. 電気設備：
 - ・受電方式／高圧6.6KV 1回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電50KVA
 - ・非常照明設備：建築基準法に基づいて設置
 - ・放送設備：非常放送と兼用、出力240W
 - ・電気時計設備、テレビ共同視聴設備、インターホン設備
 - ・電話設備：電子交換機、外線4回線
 - ・監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停制御及び計測監視
2. 空調設備
 - ・空調方式

一般系統／ガスエンジン空冷HPマルチパッケージ方式(一部空冷HP)＋静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト(空冷冷専パッケージ＋電気ヒーター＋アルカリ除去フィルターユニット)方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト(ガスエンジンHPP)方式

・熱源：簡易ガス(ガス種別：プロパン)

3. 衛生設備

- ・給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水：屋内分流・屋外合流(最終柵でポンプアップ)方式で下水道本管へ放流
- ・雨水：側溝放流
- ・多目的便所：屋内1箇所(男女別)、屋外1箇所(男女別)、トイレ呼出設備付

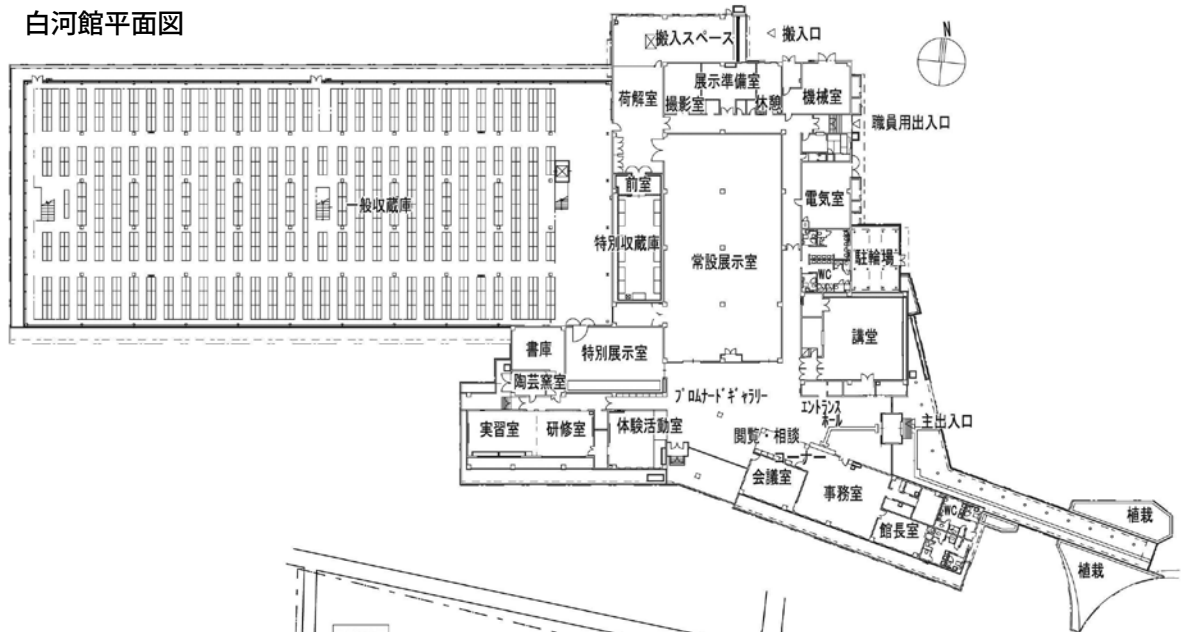
◎建築工事工期

- ・着工：平成11年7月12日
- ・完成：平成12年10月16日

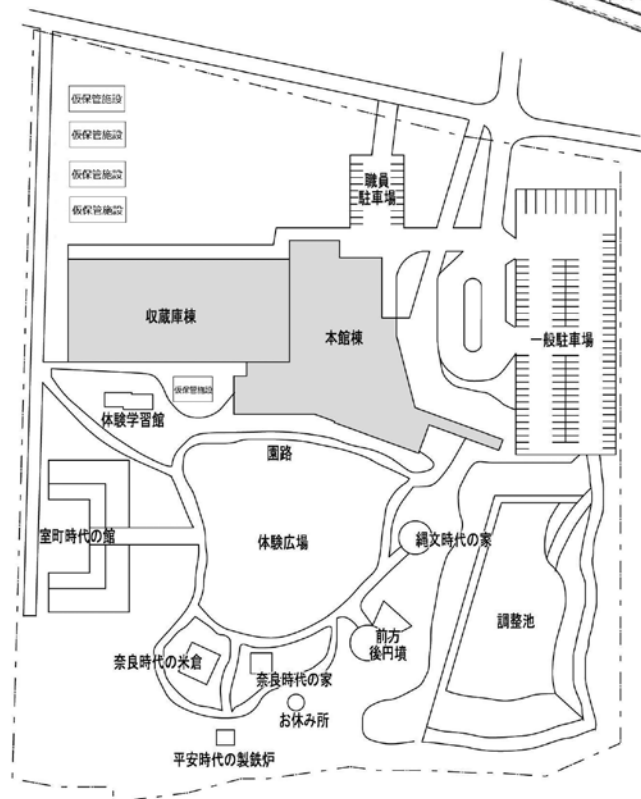
◎総建設費 3,300,625千円

- ・内訳 建築費 2,690,848千円
- 公有財産購入費 222,095千円
- その他の経費 387,682千円

白河館平面図



白河館配置図



主要諸室面積表 (㎡)

室 名	面積	備 考	室 名	面積	備 考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚 2 層目部分 2,263㎡
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合 計	5,400	
印刷室	16		体験学習館	93	
救護室	9		仮保管施設	889	5 棟 (194㎡× 4 棟+ 113㎡)

第5章 白河館の条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日 福島県条例第43号)

(設置)

第一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第二条 白河館は、白河市白坂字一里段八十六番地に置く。

(平一八条例五一・一部改正)

(業務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。

- 一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- 二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- 三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- 四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- 六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- 七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(指定管理者による管理)

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例(平成十六年福島県条例第六十八号)の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(平一七条例一〇七・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲等)

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

- 一 第三条各号に掲げる業務に関すること。
- 二 白河館の維持管理に関すること。
- 三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。
- 2 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。
- 3 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報(個人に関する情報であつて、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。)その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

(平一七条例一〇七・追加)

(遵守事項)

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わないこと。

五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(平一七条例一〇七・旧第四条繰下)

(入館の規制等)

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 一 前条の規定に違反した者
- 二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(平一七条例一〇七・旧第五条繰下・一部改正)

(使用料の不徴収)

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

(平一七条例一〇七・旧第六条繰下)

(委任)

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平一七条例一〇七・旧第八条繰下)

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。(平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行)

附 則(平成一七条例一〇七号)

- 1 この条例は、平成一八年四月一日から施行する。
- 2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手続は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

附 則(平成一八条例第五一号)

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(平成13年3月27日 福島県教育委員会規則第3号)

(休館日)

第一条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

- 一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和二十三年法律第七十八号)第三条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。
- 二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日になるとときを除く。
- 三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者(福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(開館時間)

第二条 白河館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時までとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育長の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(文化財等の特別利用)

第三条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委 任)

第四条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成十三年福島県条例第四十三号）の施行の日から施行する。

(施行の日＝平成一三年七月一五日)

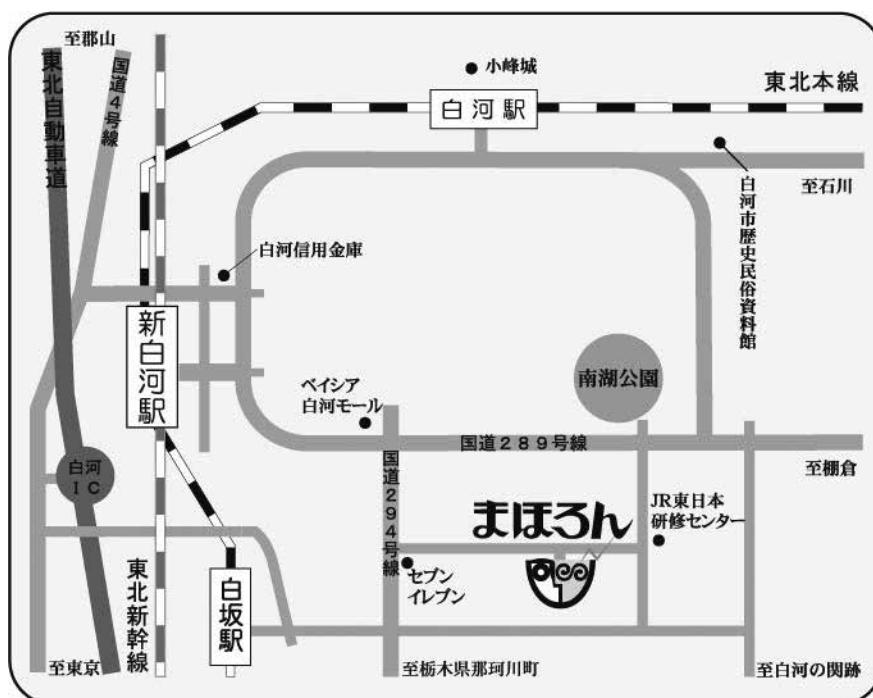
附 則（平成一七年教委規則第一六号）

この規則は、平成十八年四月一日から施行する

白河館の利用案内

- 開館時間 ・ 午前 9 時 30 分～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
- 休 館 日 ・ 毎週月曜日（国民の祝日・振替休日の場合はその翌日）
- ・ 国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）
- ・ 年末年始（12月28日～1月4日）
- 入 館 料 ・ 無料
- 交通案内 ・ J R 東北本線白河駅、J R 東北新幹線新白河駅から白河市循環バスまたは、福島交通バス（白坂・白坂駅行き）まほろんバス停下車

- ・ J R 東北本線白河駅、J R 東北新幹線新白河駅から J R バス（棚倉行き）南湖公園バス停下車徒歩 25 分
- ・ 東北自動車道白河 I C から車で 20 分
- そ の 他 ・ 屋内、屋外に多目的トイレを備えています。車いす、ベビーカーも用意しています。



福島県文化財センター白河館 年報 ～令和 3 年度実績～

令和 5 年 3 月 23 日 発行

編集・発行 公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835 福島県白河市白坂一里段 86 番地
TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075
<https://www.fcp.or.jp/mahoron/>
